

栃木県障害のある方の生活実態調査  
調査結果

令和4(2022)年3月  
栃木県



## 栃木県障害のある方の生活実態調査の結果について

### 1 調査の目的

「とちぎ障害者プラン 21(2021～2023)」の策定や今後の障害保健福祉施策の推進に役立てるため、障害者の日常生活や困り事等を調査したものである。

### 2 調査の内容

#### (1) 調査対象者

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者及び難病患者（特定疾患医療受給者証所持者）の中から抽出した1,100名にアンケート用紙を送付した。

内訳は以下のとおりである。

身体障害者手帳所持者：690名

療育手帳所持者：170名

精神障害者保健福祉手帳所持者 120名

難病患者（特定疾患医療受給者証所持者）：120名

※調査対象者数は、障害の程度・種類及び年齢の割合を勘案して抽出した。

(2) 回答数 522名（回答率の47.5%）

#### (3) 実施期間

令和2(2020)年8月3日～8月31日

#### (4) 実施内容

- ・ 基本情報（記入方法、年齢、性別、障害の程度等）について
- ・ 相談について
- ・ 障害者差別解消について
- ・ 暮らしについて
- ・ 療育について
- ・ 就労について
- ・ スポーツについて
- ・ 災害対策について 等

### 3 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分率の合計が100.0%にならないことがある。
- ・ 設問や選択肢の内容を平成26年度調査時から大きく変更した項目は、令和2年度の調査結果と比較していない。



## 目 次

### 1 単純集計結果

- 基本情報について (P. 1～P. 6)
  - (1) 記入方法
  - (2) 年齢
  - (3) 性別
  - (4) 居住地
  - (5) 手帳等の種類・診断の有無
    - ① 手帳等の種類
    - ② 身体障害者手帳の障害の程度
    - ③ 療育手帳の障害の程度
    - ④ 精神障害者保健福祉手帳の障害の程度
    - ⑤ 発達障害の診断の有無
    - ⑥ 高次脳機能障害の診断の有無
- 相談について (P. 7～P. 8)
  - 問1 悩み事
  - 問2 悩みの相談先
  - 問3 相談支援体制へ希望すること
- 障害者差別解消について (P. 9～P. 11)
  - 問4 差別の有無
  - 問5 差別を感じた時
  - 問6 差別に関する相談先
  - 問7 差別に関する相談をしない理由
- 暮らしについて (P. 12～P. 13)
  - 問8 どのように暮らしているか
  - 問9 今後の暮らし
  - 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援
- 療育について (P. 14)
  - 問11 保育・療育・教育環境について希望すること
- 就労について (P. 15)
  - 問12 仕事をしたことの有無
  - 問13 仕事を続けるために必要な配慮
- スポーツについて (P. 16～P. 17)
  - 問14 スポーツを行っているか
  - 問15 スポーツを行わない理由
- 災害対策について (P. 18～P. 20)
  - 問16 災害時にひとりで避難できるか
  - 問17 災害時に近所に助けてくれる人はいるか
  - 問18 災害時の不安
  - 問19 新型コロナウイルス感染症の不安

### 2 クロス集計結果

#### ア) 障害種別 (区分: 身体、知的、精神、複合、難病)

- 相談について (P. 21～P. 22)
  - 問1 悩み事
  - 問2 悩みの相談先
  - 問3 相談支援体制へ希望すること

●障害者差別解消について (P. 23～P. 24)

- 問4 差別の有無
- 問5 差別を感じた時
- 問6 差別に関する相談先
- 問7 差別に関する相談をしない理由

●暮らしについて (P. 25～P. 26)

- 問8 どのように暮らしているか
- 問9 今後の暮らし
- 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援

●就労について (P. 27)

- 問12 仕事をしたことの有無
- 問13 仕事を続けるために必要な配慮

イ) 年齢 (区分: 17歳以下、18～39歳、40～64歳、65歳以上)

●暮らしについて (P. 28～P. 29)

- 問8 どのように暮らしているか
- 問9 今後の暮らし
- 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援

●スポーツについて (P. 30)

- 問14 スポーツを行っているか
- 問15 スポーツを行わない理由

ウ) 障害保健福祉圏域 (区分: 居住市町により6つの地域別)

●相談について (P.31)

- 問2 悩みの相談先
- 問3 相談支援体制へ希望すること

※障害保健福祉圏域

圏域名	構成市町名
宇都宮	宇都宮市
県西	鹿沼市、日光市
県東	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町
県南	栃木市、小山市、下野市、上三川町、壬生町、野木町
県北	大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町
両毛	足利市、佐野市

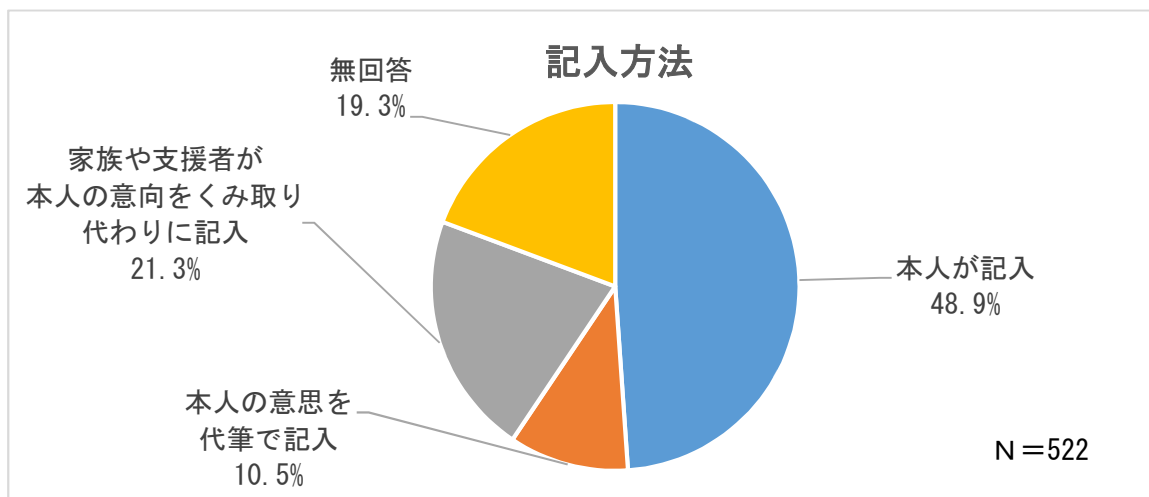
3 その他 (自由記述欄) の内容のまとめ (P. 32～P.46)

## 1 単純集計結果

### ●基本情報について

#### (1) 記入方法

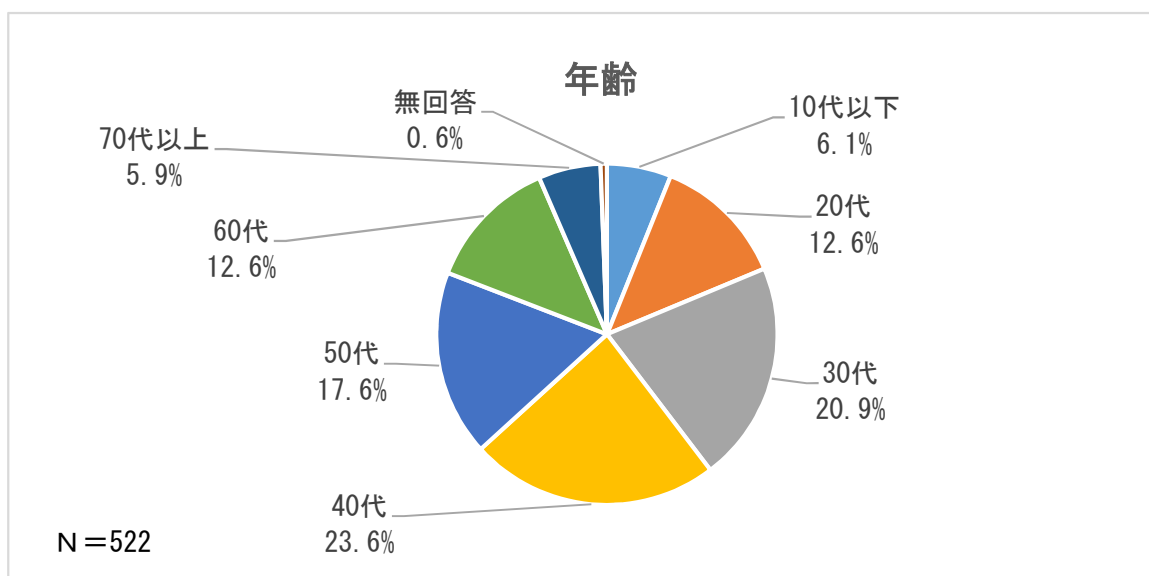
本調査の記入方法をお答えください。



記入者は、「本人が記入」が 48.9%で最も多く、次いで「家族や支援者が本人の意向をくみ取り代わりに記入」が 21.3%、「本人の意思を代筆で記入」が 10.5%となっています。

#### (2) 年齢

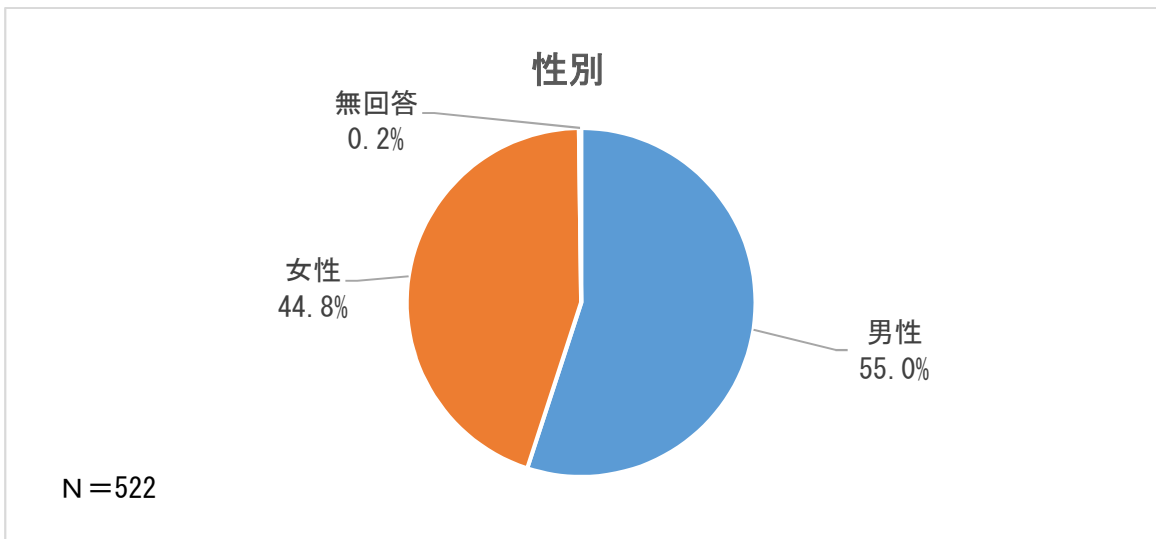
ご本人の年齢をお答えください。



回答者の年齢層は「40代」が 23.6%で最も多くなっています。次いで「50代」が 17.6%、「30代」が 20.9%となっています。

### (3) 性別

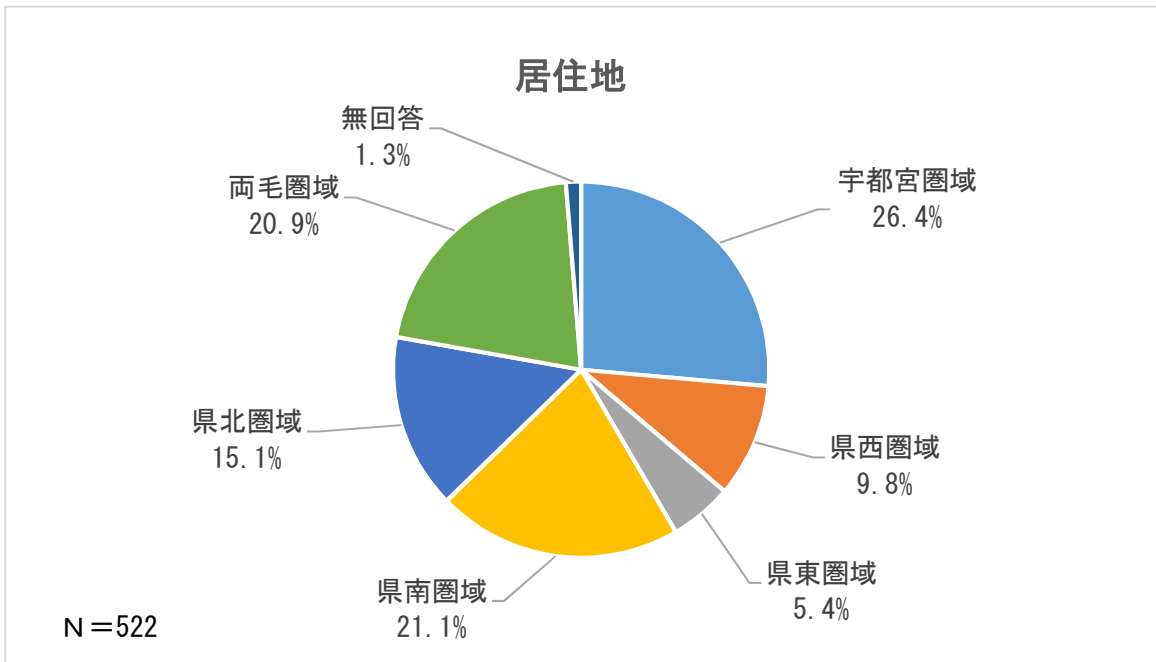
ご本人の性別をお答えください。



回答者の性別は、「男性」が55.0%、「女性」が44.8%と男性が10.2%上回る状況にあります。

### (4) 居住地

ご本人の居住地をお答えください。

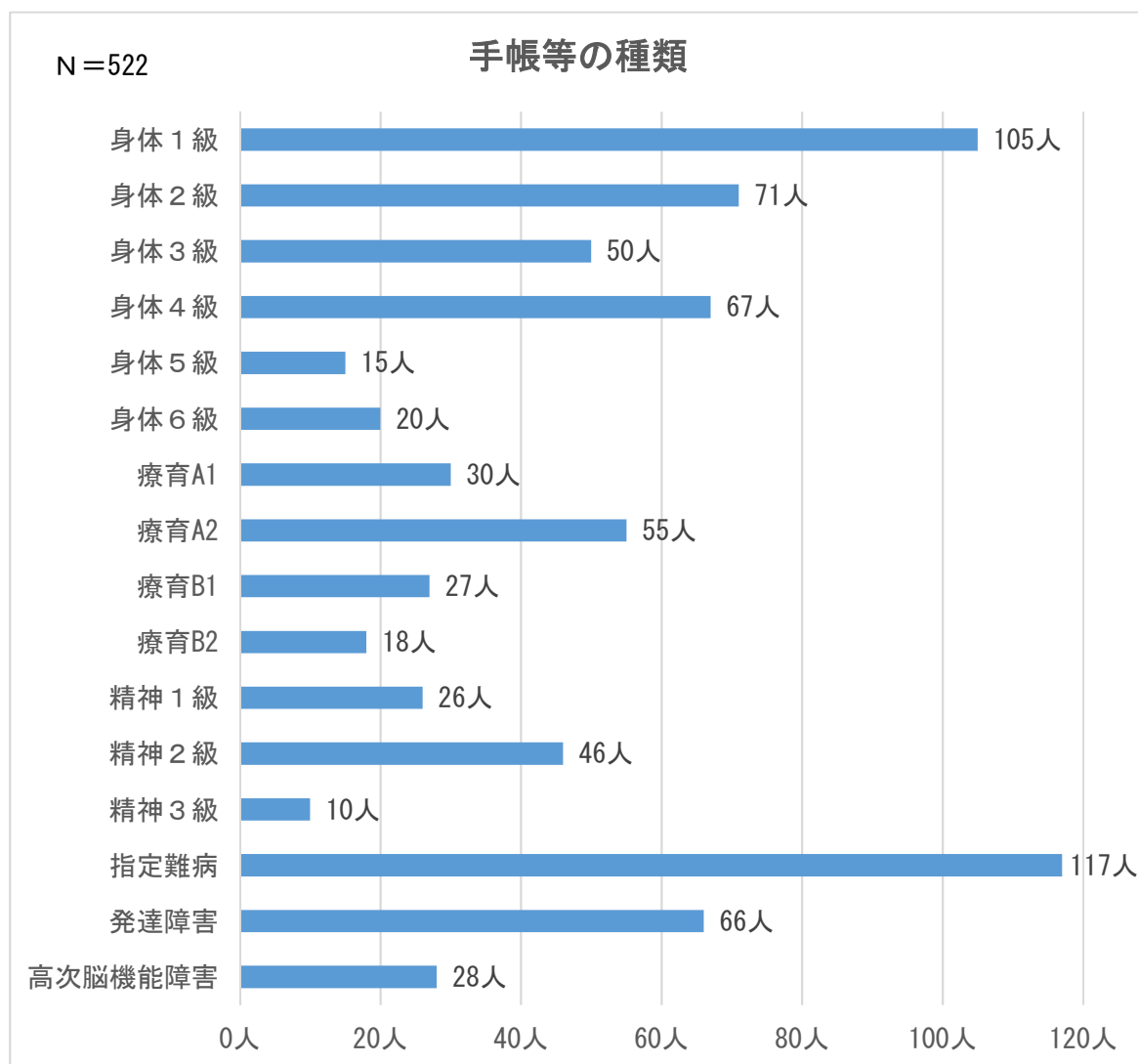


回答者の居住地は、「宇都宮圏域」が26.4%で最も多くなっています。次いで「県南圏域」の21.1%、「両毛圏域」の20.9%、「県北圏域」の15.1%となっています。



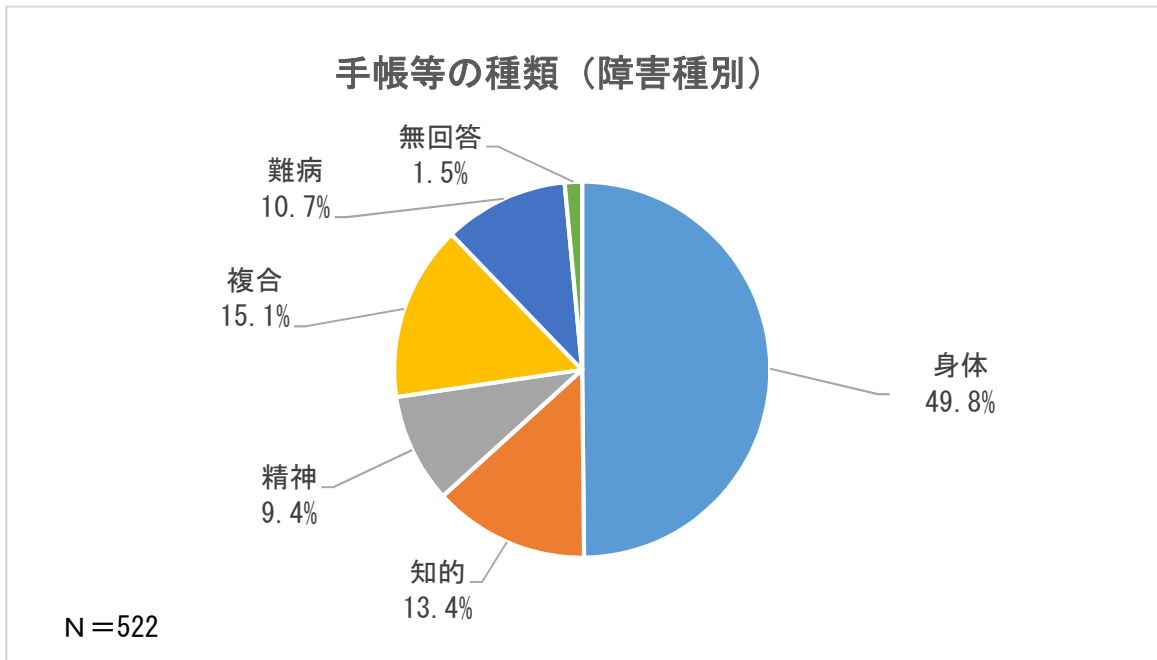
(5) 手帳等の種類・障害の診断

手帳の所持状況や障害の診断についてお答えください。



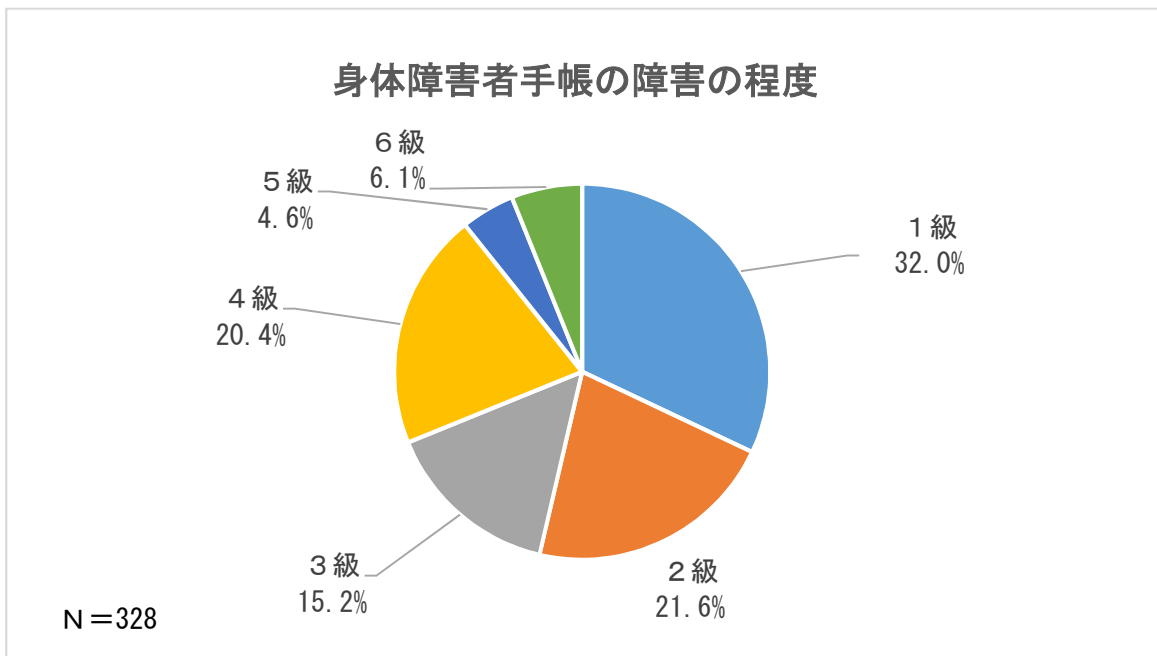
回答者が所持している手帳は、「身体障害者手帳」が328人、「療育手帳」が130人、「精神保健福祉手帳」が82人、「特定医療費（指定難病）受給者証」が117人となっています。また、発達障害の診断を受けている方が66人、高次脳機能障害の診断を受けている方が28人となっています。

① 手帳等の種類



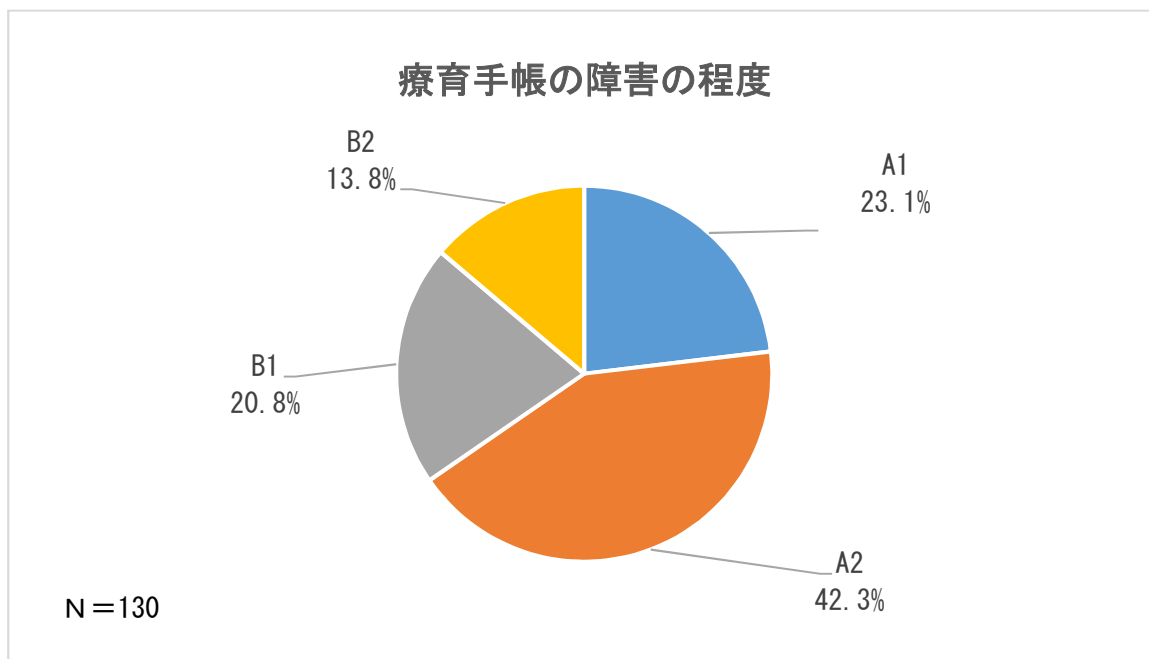
回答者が所持している手帳は「身体障害者手帳」が49.8%で最も多くなっています。次いで「複合」の15.1%、「療育手帳」の13.4%、「特定疾患医療受給者証」の10.7%となっています。

② 身体障害者手帳の障害の程度



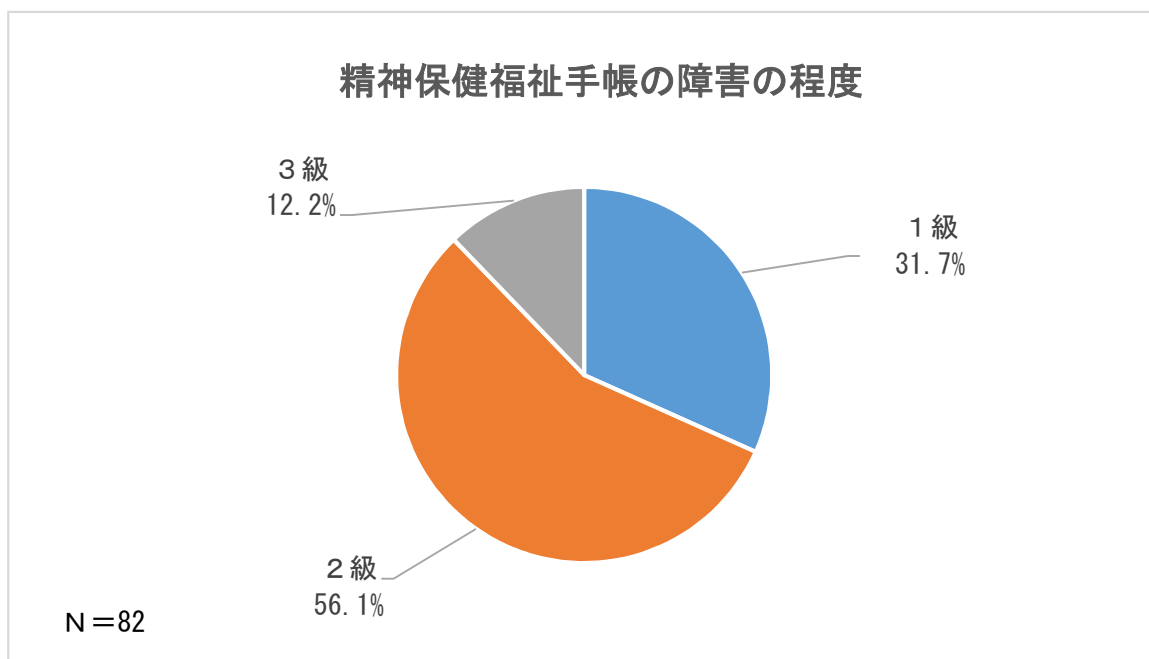
身体障害者手帳所持者のうち等級は「1級」が32.0%と最も多くなっています。次いで「2級」の21.6%、「4級」の20.4%、「3級」の15.2%となっています。

③ 療育手帳の障害の程度



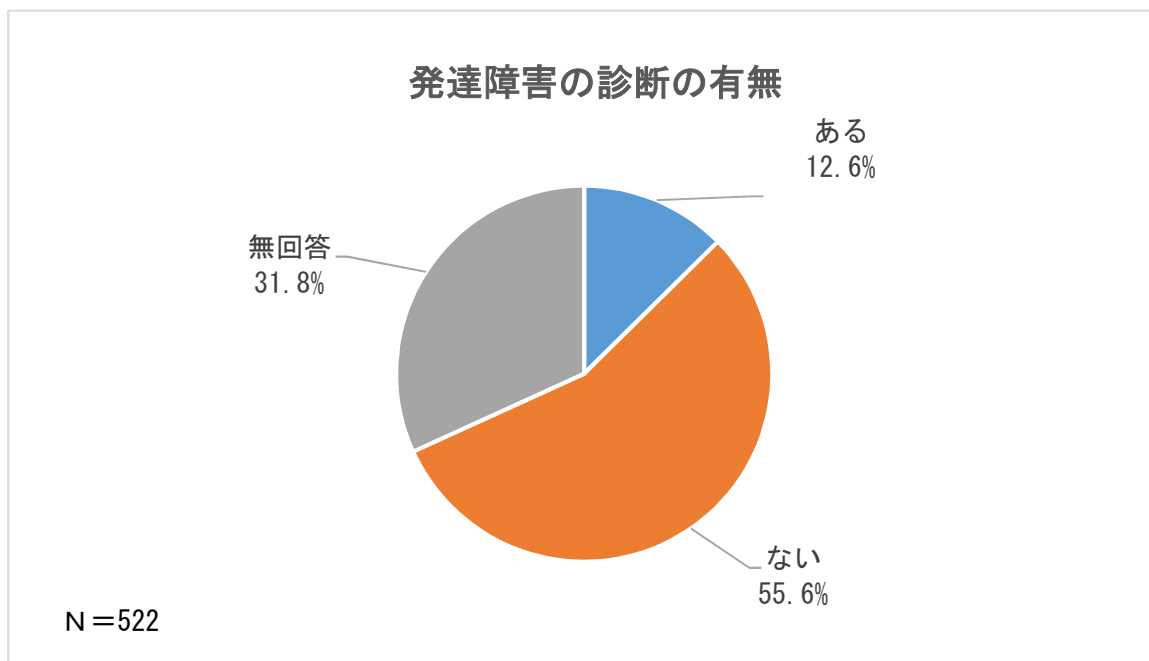
療育手帳所持者のうち等級は「A2」が42.3%と最も多くなっています。次いで「A1」の23.1%、「B1」の20.8%、「B2」の13.8%となっています。

④ 精神保健福祉手帳の障害の程度



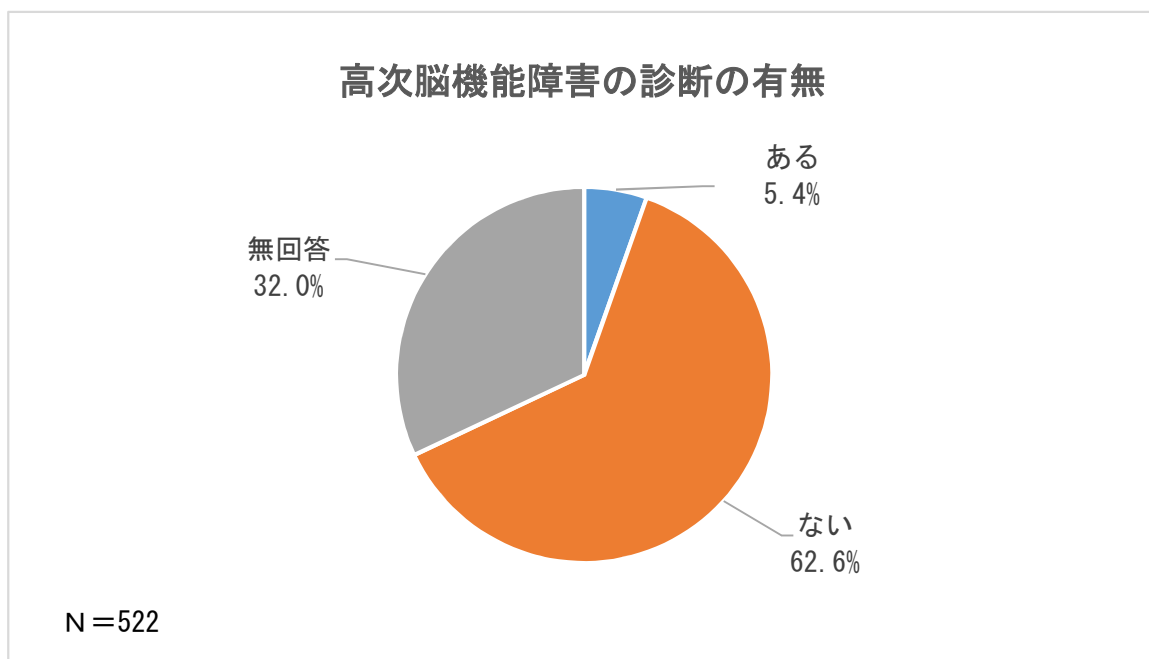
精神保健福祉手帳所持者のうち等級は「2級」が56.1%と最も多くなっています。次いで「1級」の31.7%、「3級」の12.2%となっています。

⑤ 発達障害の診断の有無



発達障害の診断の有無は「ない」が 55.6%、「ある」が 12.6%となっています。

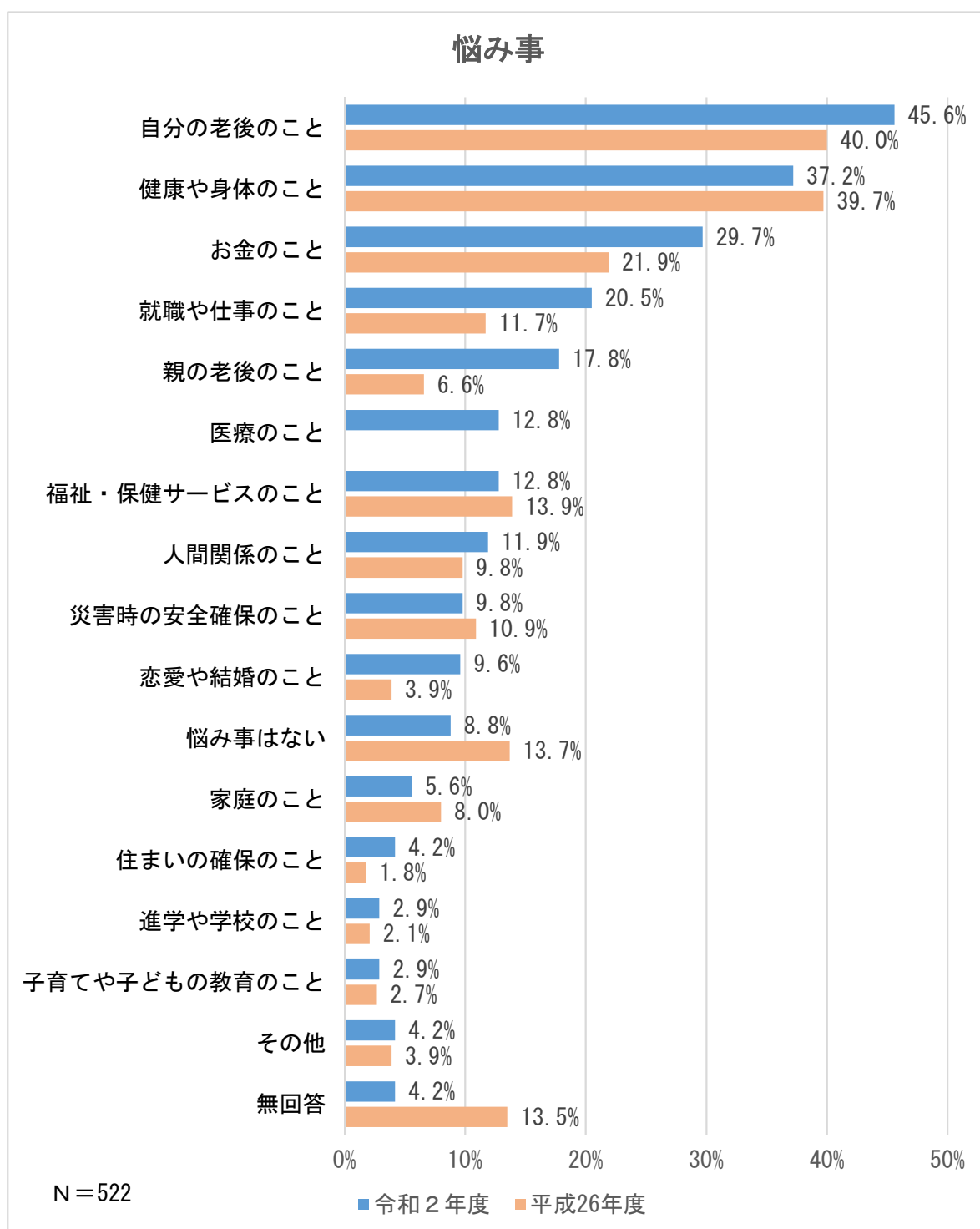
⑥ 高次脳機能障害の診断の有無



高次脳機能障害の診断の有無は「ない」が 62.6%、「ある」が 5.4%となっています。

●相談について

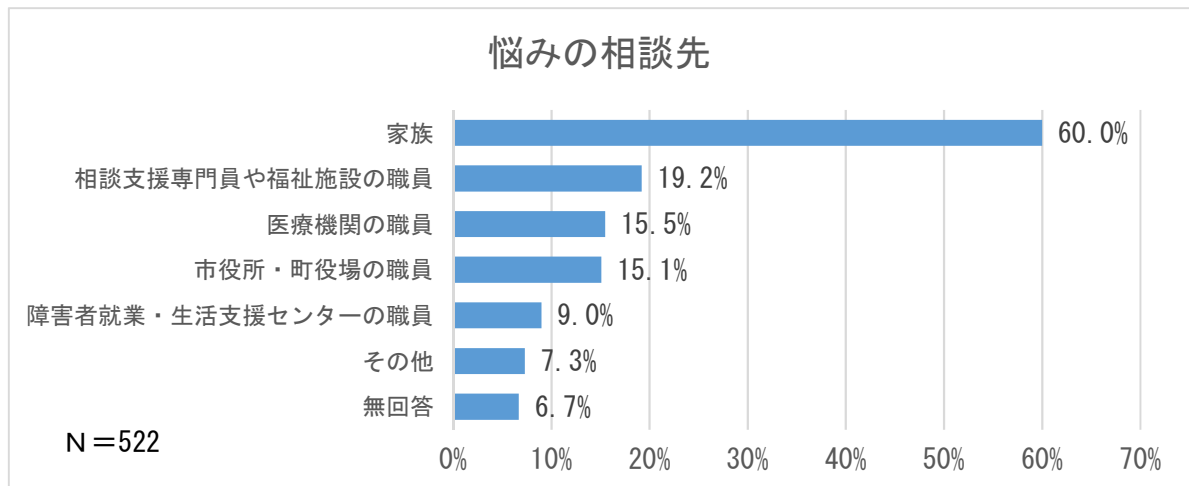
問1 現在、悩み事がありますか。(3つまで選択)



現在の悩み事としては「自分の老後のこと」が45.6%で最も多くなっています。次いで、「健康や身体のこと」の37.2%、「お金のこと」の29.7%、「就職や仕事のこと」の20.5%と続いています。

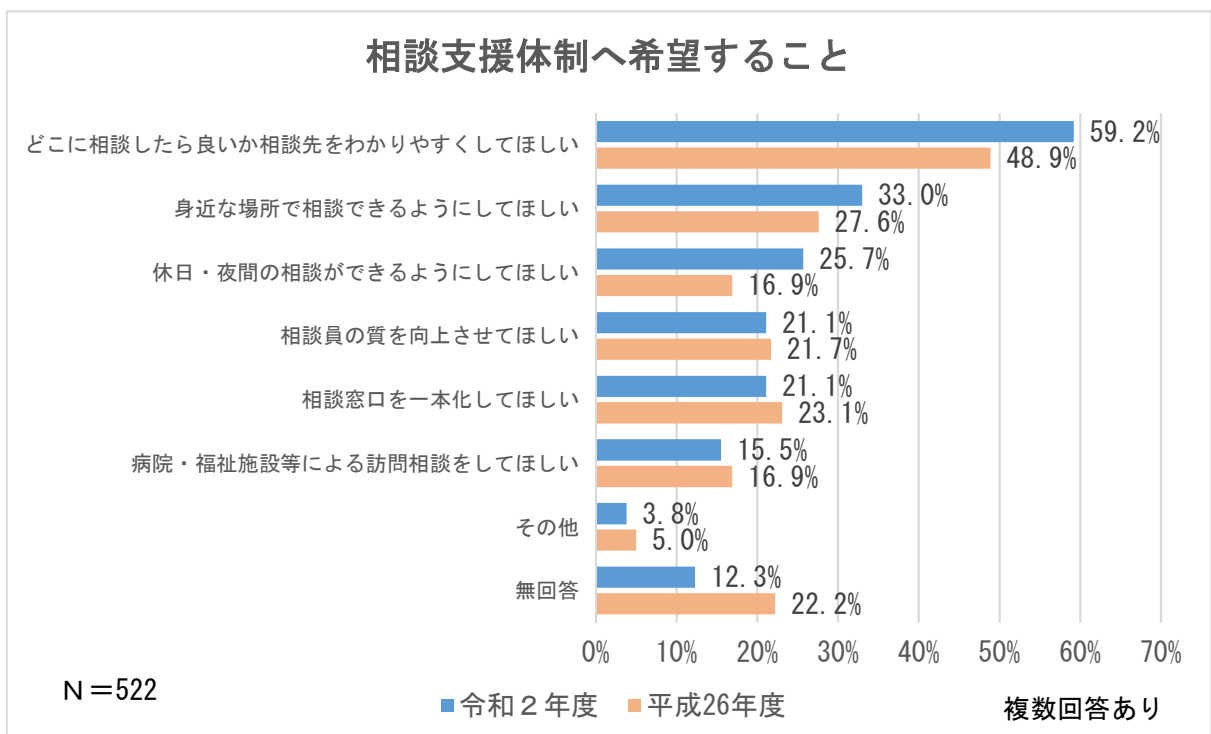
※令和2年度調査では、選択肢「医療のこと」を追加しました。

問2 生活や福祉に関する悩みを誰に相談しますか。(あてはまるもの全て)



悩みの相談先は「家族」が60.0%で他の項目に比べ高い割合を示しています。次いで、「相談支援専門員や福祉施設の職員」の19.2%、「医療機関の職員」の15.5%等と続いています。

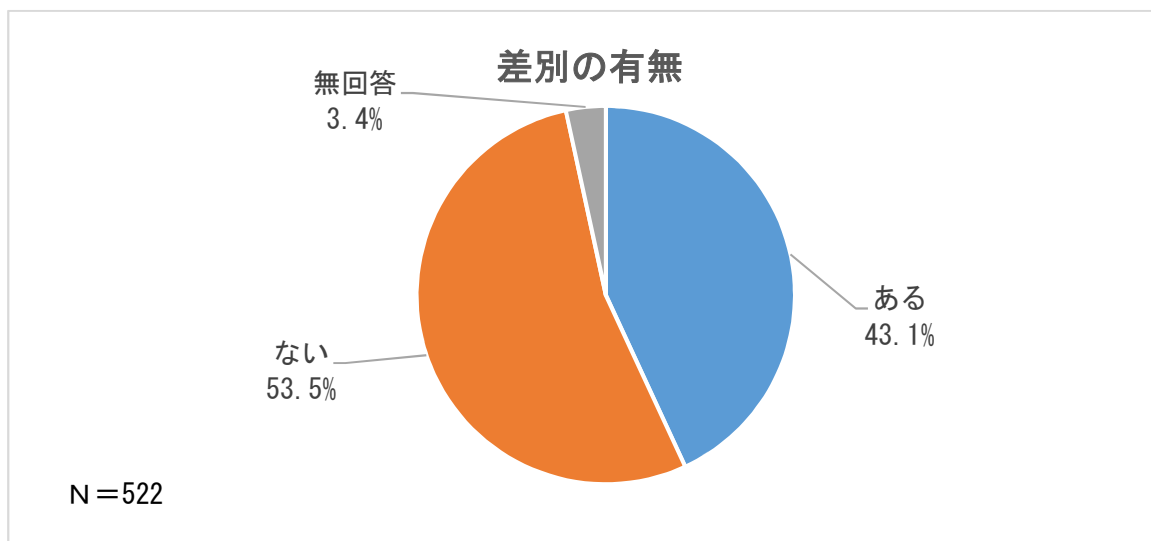
問3 生活や福祉に関する相談支援体制についてどんなことを希望しますか。



相談支援体制として希望することは「どこに相談したら良いか相談先をわかりやすくしてほしい」が59.2%で最も多くなっています。次いで、「身近な場所で相談できるようにしてほしい」33.0%、「休日・夜間の相談ができるようにしてほしい」25.7%と続いています。

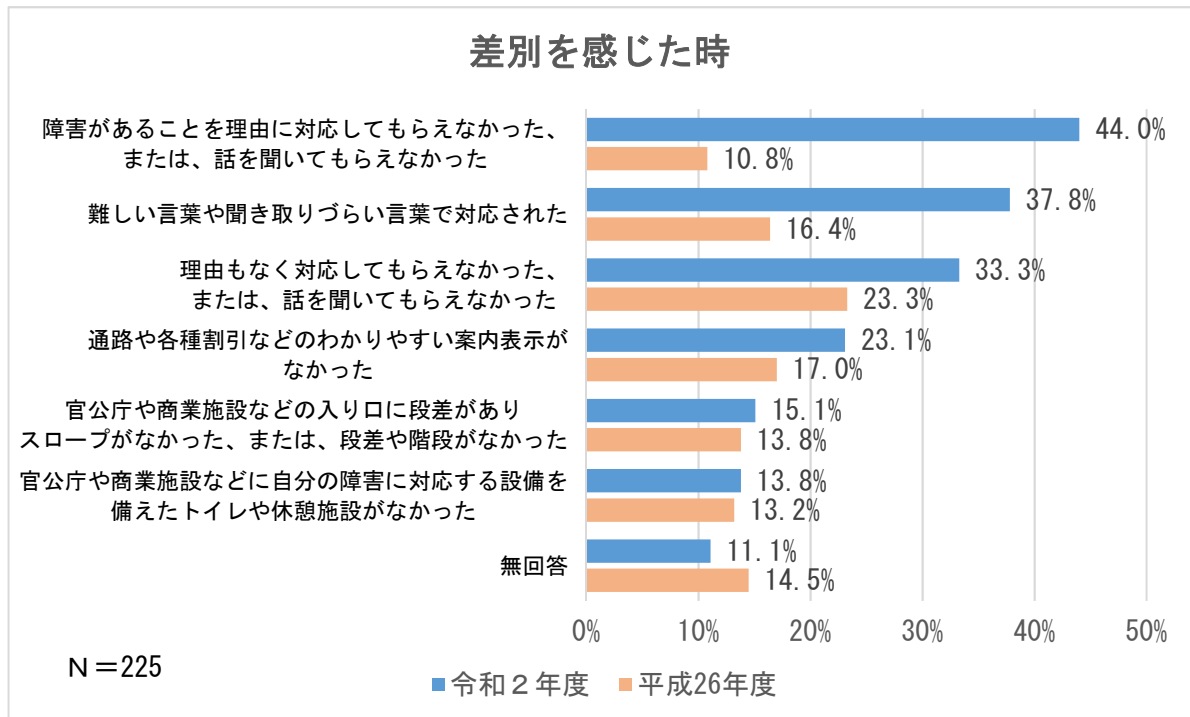
●障害者差別解消について

問4 あなたは障害があることで、差別されたり、嫌な思いをする(した)ことがありますか。



差別の有無については、「ない」が53.5%、「ある」が43.1%となっています。

問5 あなたは差別されたり、嫌な思いをしたのはどのような時でしたか。(3つまで選択)

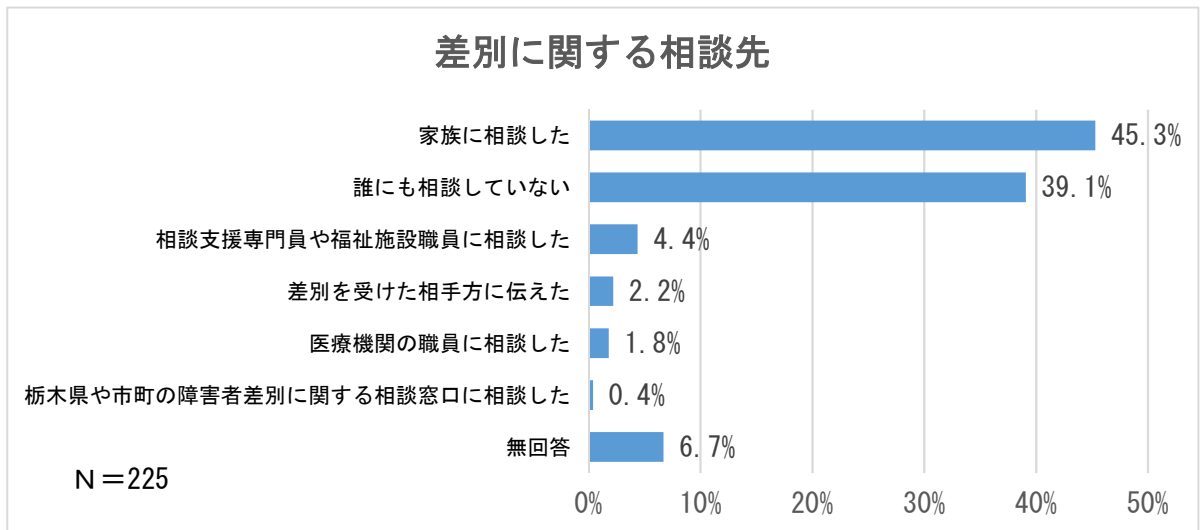


問4で差別されたことがあると回答した方がどのような時に差別を感じたかでは、「障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」が44.0%で最も多くなっています。次いで、「難しい言葉や聞き取りづらい言葉で対応された」の37.8%、「理由もなく対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」の33.3%、「通路や各種割引などのわかりやすい案内表示がなかった」の23.1%、「官公庁や商業施設などの入口に段差がありスロープがなかった、または、段差や階段がなかった」の15.1%、「官公庁や商業施設などに自分の障害に対する設備を備えたトイレや休憩施設がなかった」の13.8%となっています。

平成26年度調査と比較すると、「障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」、「難しい言葉や聞き取りづらい言葉で対応された」の割合が大きく上昇しています。

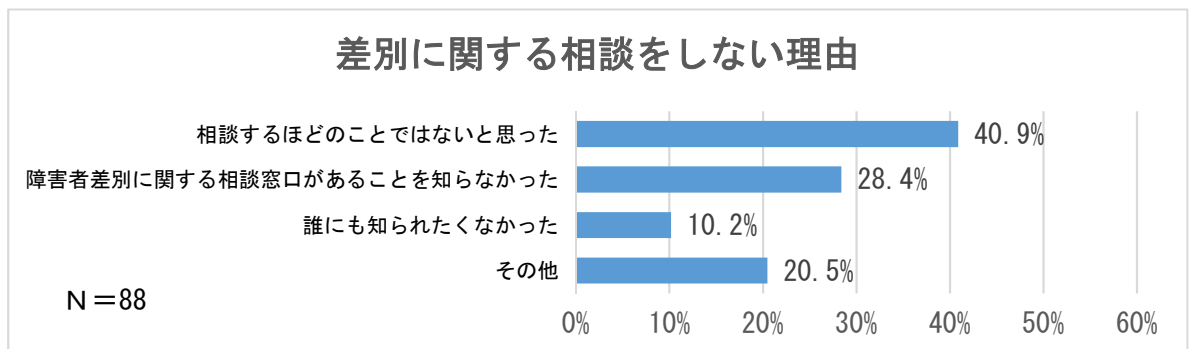


問6 あなたは差別されたり、嫌な思いをした時、だれかに相談しましたか。



問4で差別されたことがあると回答した方が差別されたり、嫌な思いをした時の相談先は「家族に相談した」が45.3%で最も多くなっています。次いで、「誰にも相談していない」の39.1%、「相談支援専門員や福祉施設職員に相談した」の4.4%と続いています。

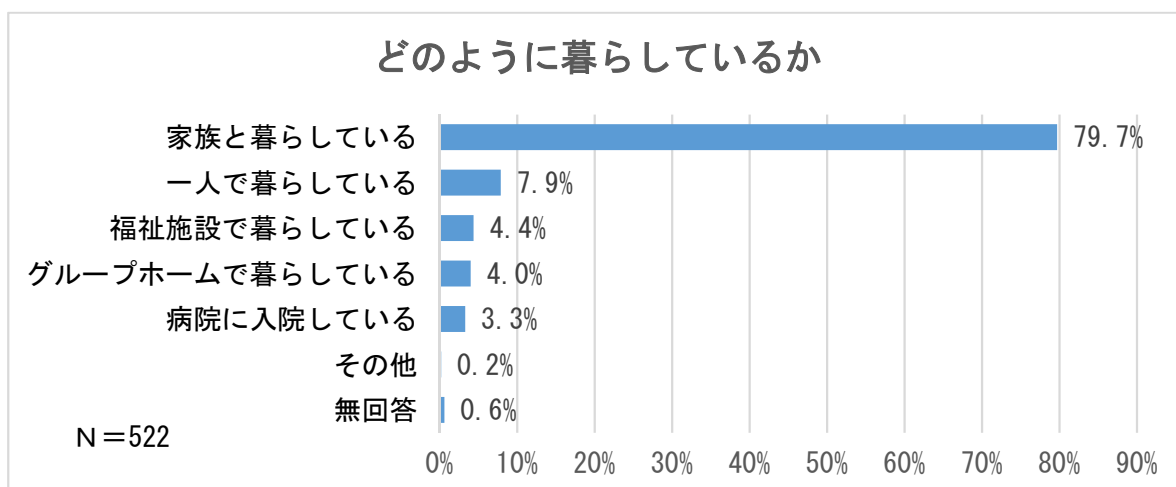
問7 なぜ誰にも相談していないのですか。



問6で誰にも相談していないと回答した方の理由は「相談するほどのことではないと思った」が40.9%で最も多くなっています。次いで、「障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった」の28.4%等と続いています。

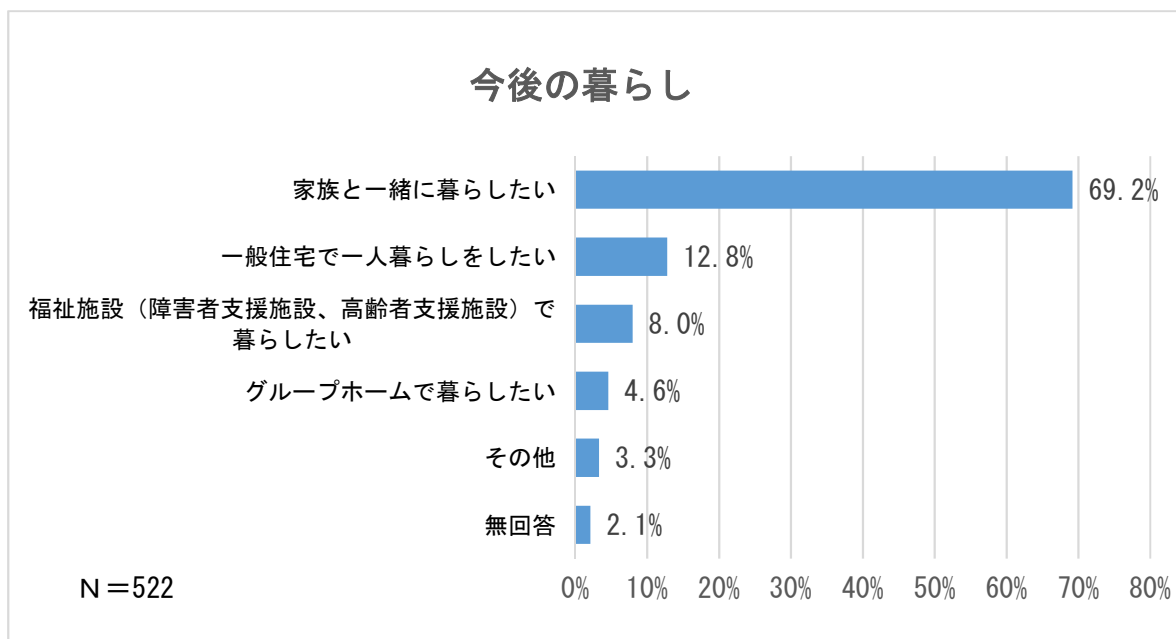
●暮らしについて

問8 現在、あなたはどのように暮らしていますか。



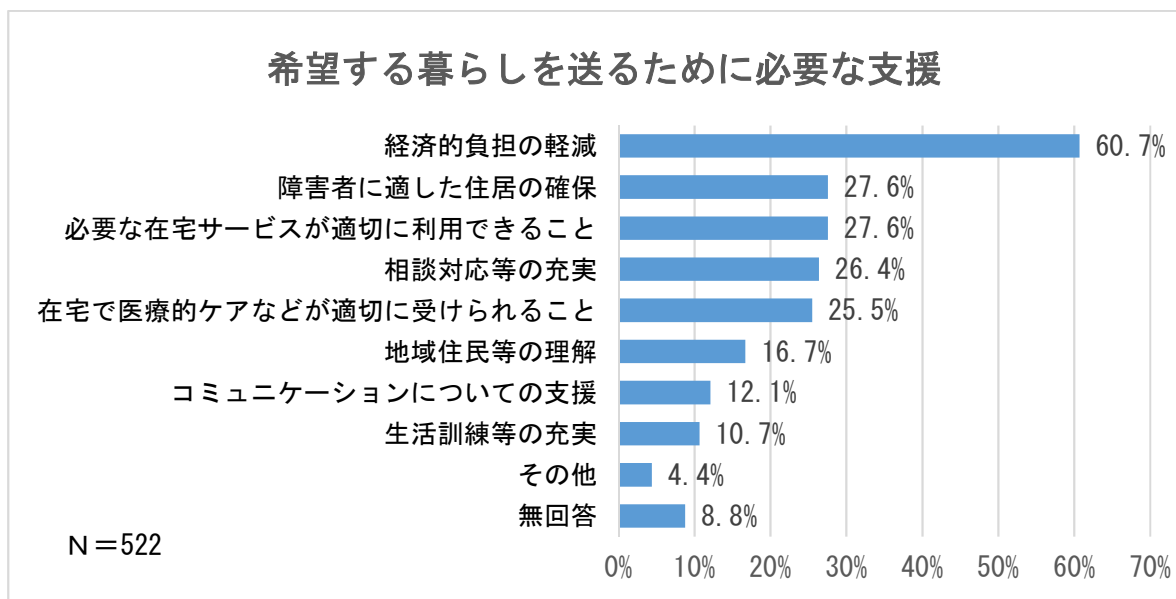
どのように暮らしているかについては「家族と暮らしている」が79.7%と最も多くなっています。他の選択肢の割合は同程度となっています。

問9 あなたは今後、どのように暮らしたいですか。



今後どのように暮らしたいかについては「家族と一緒に暮らしたい」が69.2%と最も多くなっています。次いで、「一般住宅で一人暮らしをしたい」の12.8%、「福祉施設で暮らしたい」の8.0%、「グループホームで暮らしたい」の4.6%と続いています。

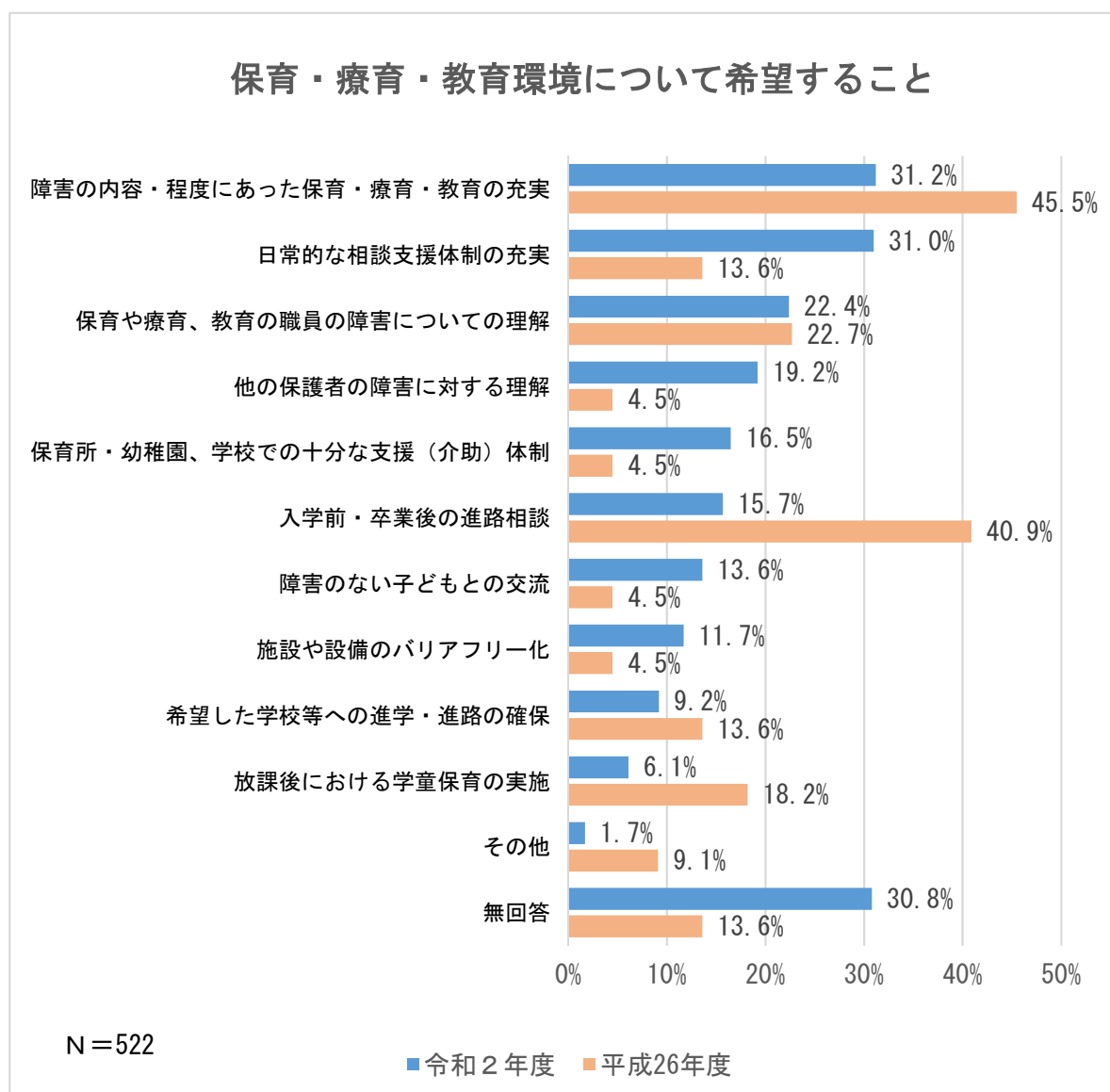
問10 希望する暮らしを送るためには、どのような支援があればよいと思いますか。  
(3つまで選択)



希望する暮らしを送るために必要な支援として最も多かったのは「経済的負担の軽減」で60.7%となっています。次いで、「障害者に適した住居の確保」及び「必要な住宅サービスが適切に利用できること」の27.6%、「相談対応等の充実」の26.4%、「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」の25.5%と続いています。

●療育について

問11 障害のある子どもの保育・療育・教育環境について、今後希望することは何ですか。  
(3つまで選択)



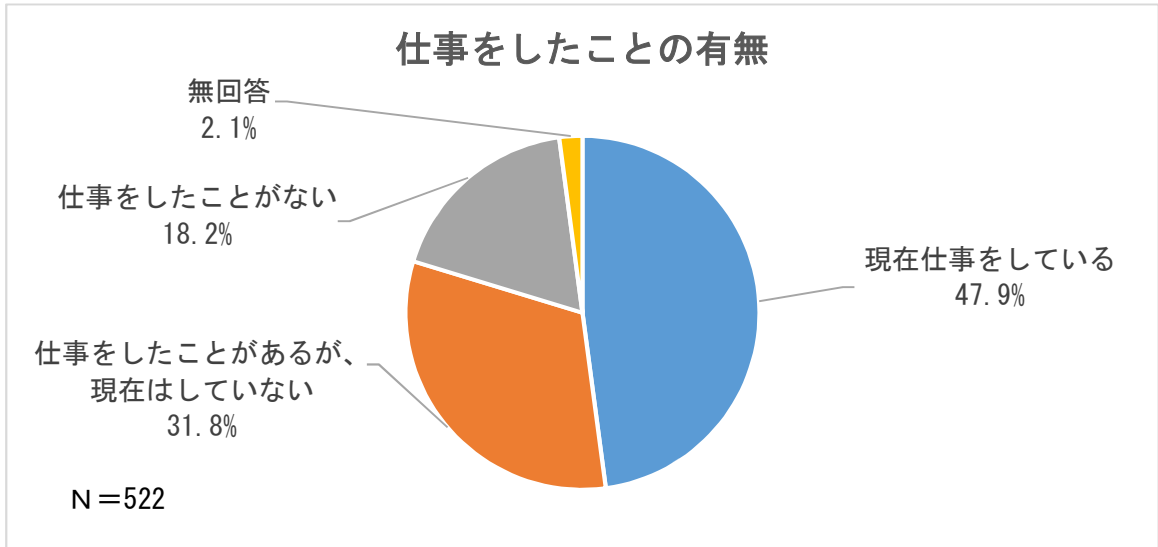
障害のある子どもの保育・医療・教育環境について今後希望することは「障害の内容・程度にあった保育、療育、教育の充実」の31.2%で最も多く、次いで、「日常的な相談支援体制の充実」の31.0%、「保育や療育、教育の職員の障害についての理解」の22.4%、「他の保護者の障害に対する理解」の19.2%と続いています。

平成26年度調査と比較すると、「日常的な相談支援体制の充実」の割合が大きく上昇している一方、「障害の内容・程度にあった保育、療育、教育の充実」、「入学前・卒業後の進路相談」、「放課後における学童保育の実施」の割合は大きく減少しています。

※令和2年度調査では、設問内容に「保育・教育」に加えて「療育」を追加しました。

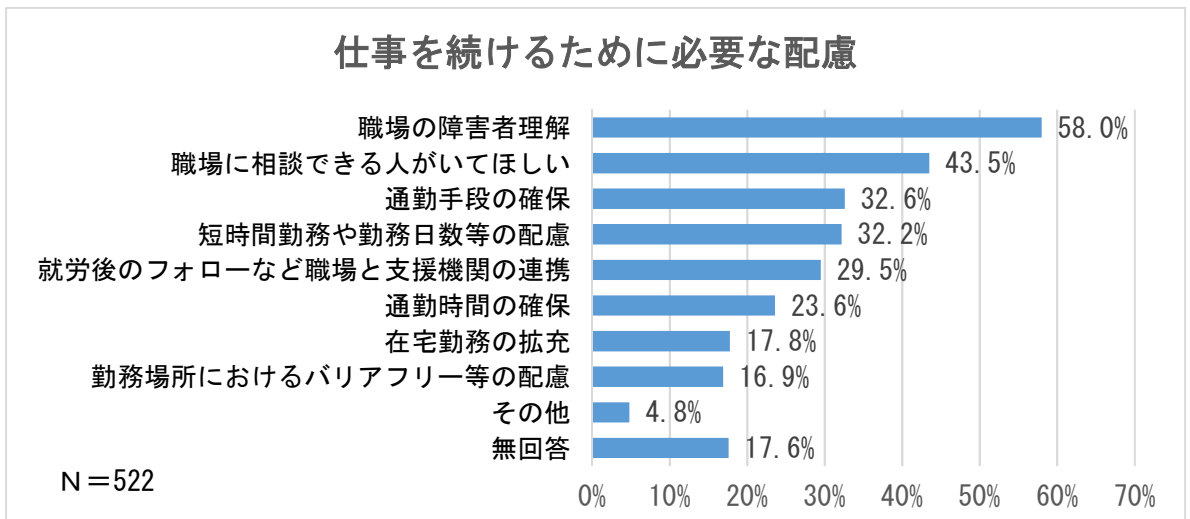
●就労について

問12 これまでに仕事をしたことがありますか。



これまでに仕事をしたことがあるかについては、「現在仕事をしている」が47.9%で最も多くなっています。次いで、「仕事をしたことがあるが、現在はしていない」の31.8%、「仕事をしたことがない」の18.2%となっています。

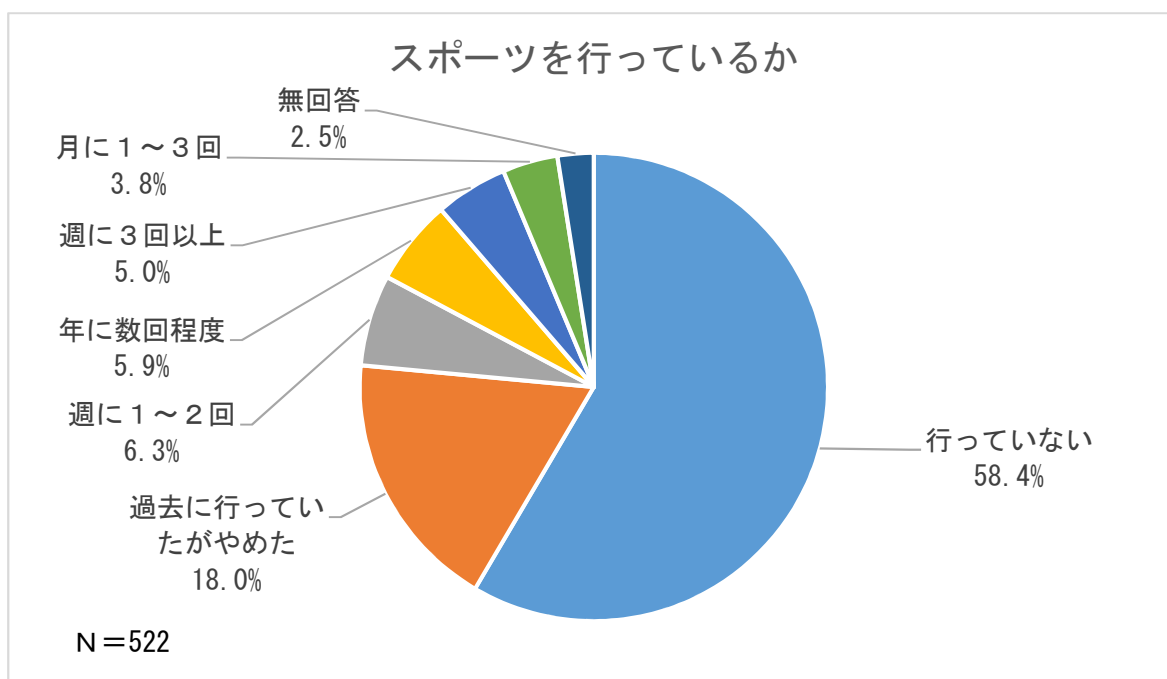
問13 仕事をする、または仕事を続けるためには、どのような配慮が必要だと思いますか。  
(あてはまるものをすべて選択)



仕事を続けるために必要な配慮については「職場の障害者理解」の58.0%が最も多くなっています。次いで、「職場に相談できる人がいてほしい」の43.5%、「通勤手段の確保」の32.6%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」の32.2%、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」の29.5%と続いています。

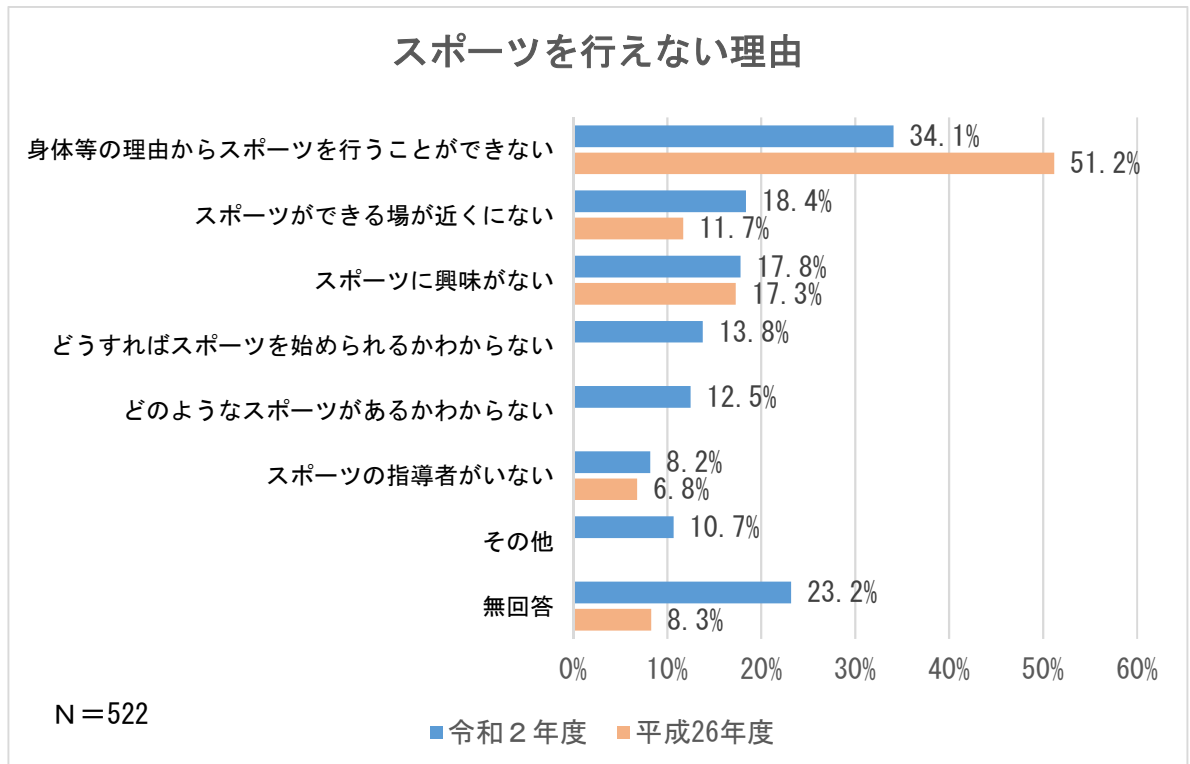
●スポーツについて

問14 あなたはスポーツを行っていますか。



スポーツを行っているかについては「行っていない」が58.4%と過半数を占めており、次いで「過去に行っていたがやめた」の18.0%、「週に1~2回以上」の6.3%、「年に数回程度」の5.9%等となっています。

問15 スポーツを行っていない、または行えない理由は何ですか。(3つまで選択)

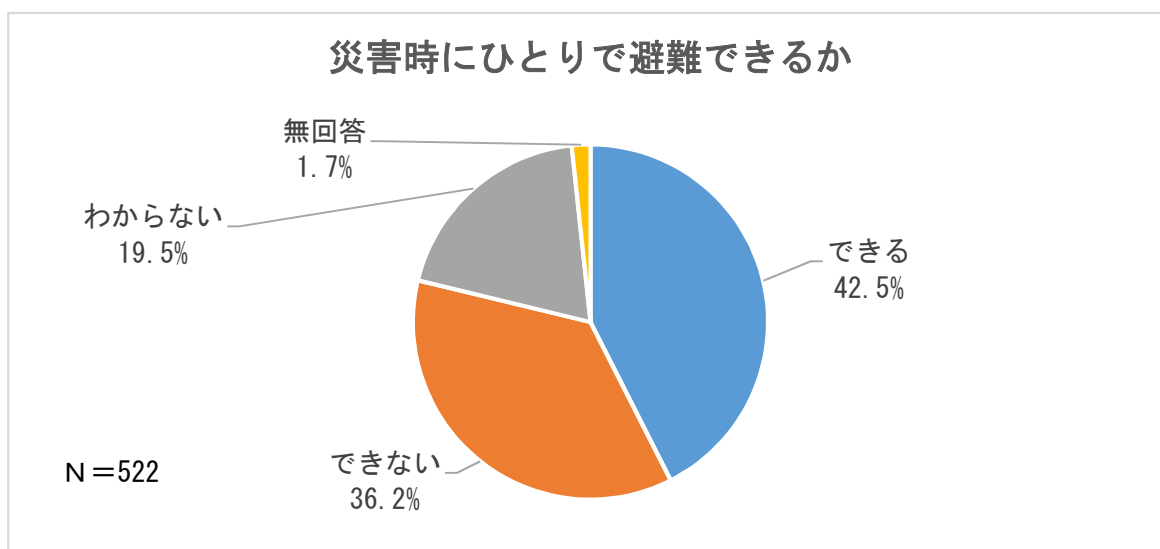


スポーツを行っていない、または行えない理由は「身体等の理由からスポーツを行うことができない」が 34.1%で最も多くなっています。次いで、「スポーツができる場が近くにない」の 18.4%、「スポーツに興味がない」の 17.8%と続いています。

※令和2年度調査では選択肢を一部削減し、「どのようなスポーツがあるかわからない」、「どうすればスポーツを始められるかわからない」を追加しました。

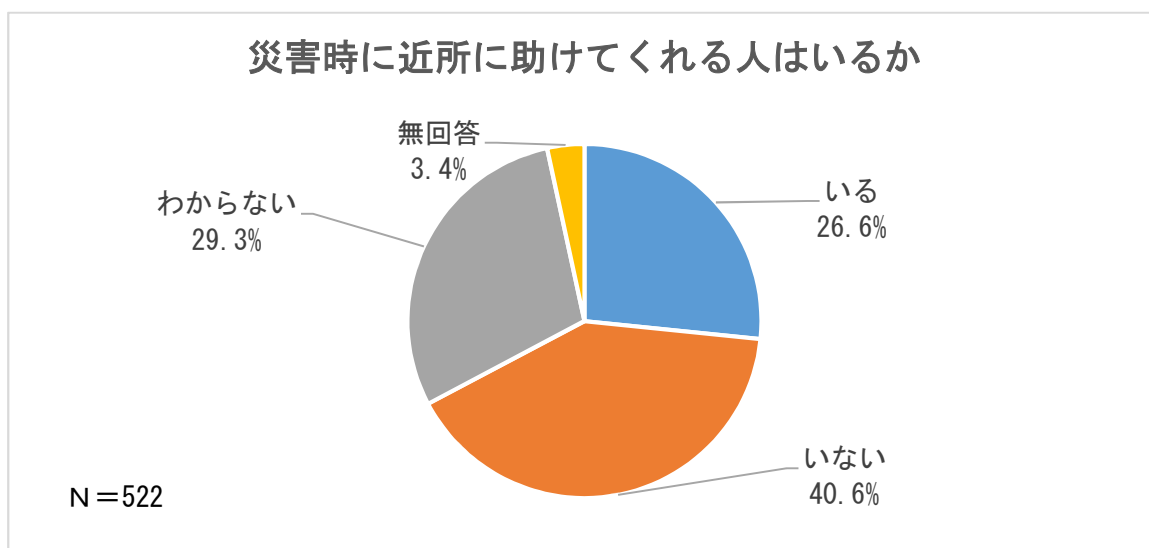
●災害対策について

問16 あなたは、地震や台風などの災害時に、ひとりで避難できますか。



災害時に、ひとりで避難できるかについては「できる」が42.5%、「できない」が36.2%、「わからない」が19.5%となっています。

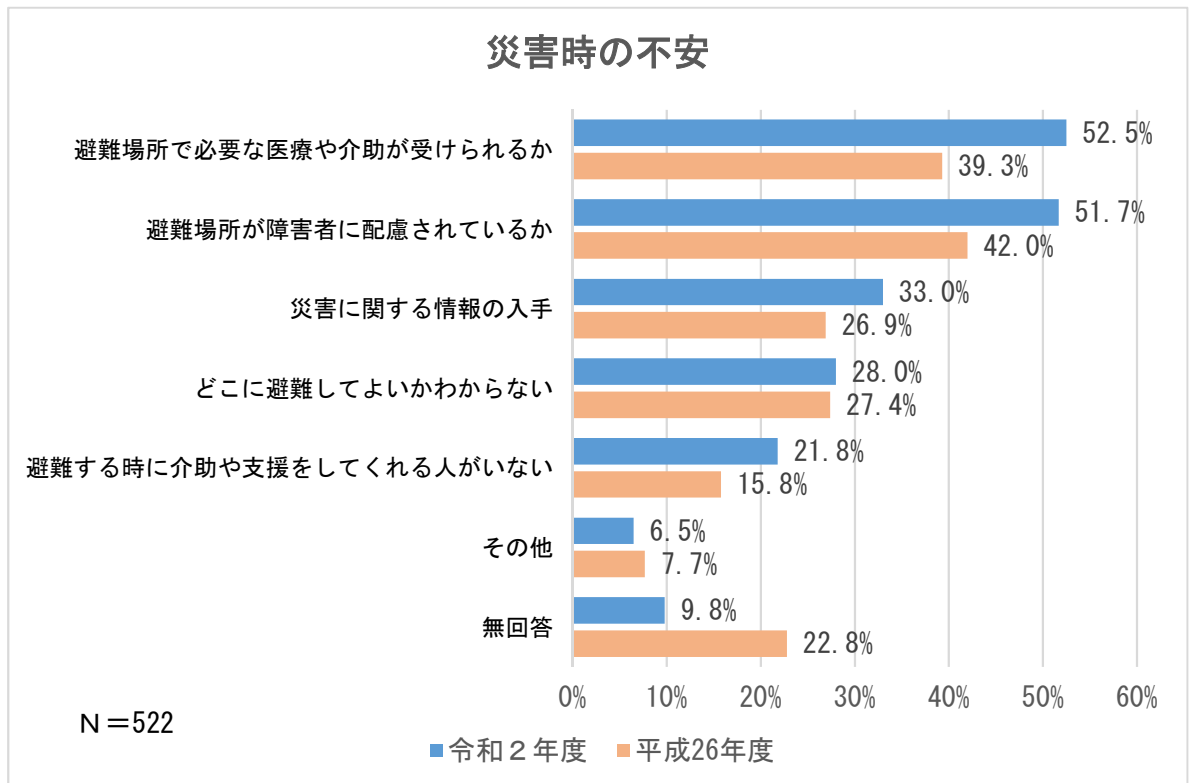
問17 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。



近所に助けてくれる人はいるかについては「いる」が26.6%、「いない」が40.6%、「わからない」が29.3%となっています。

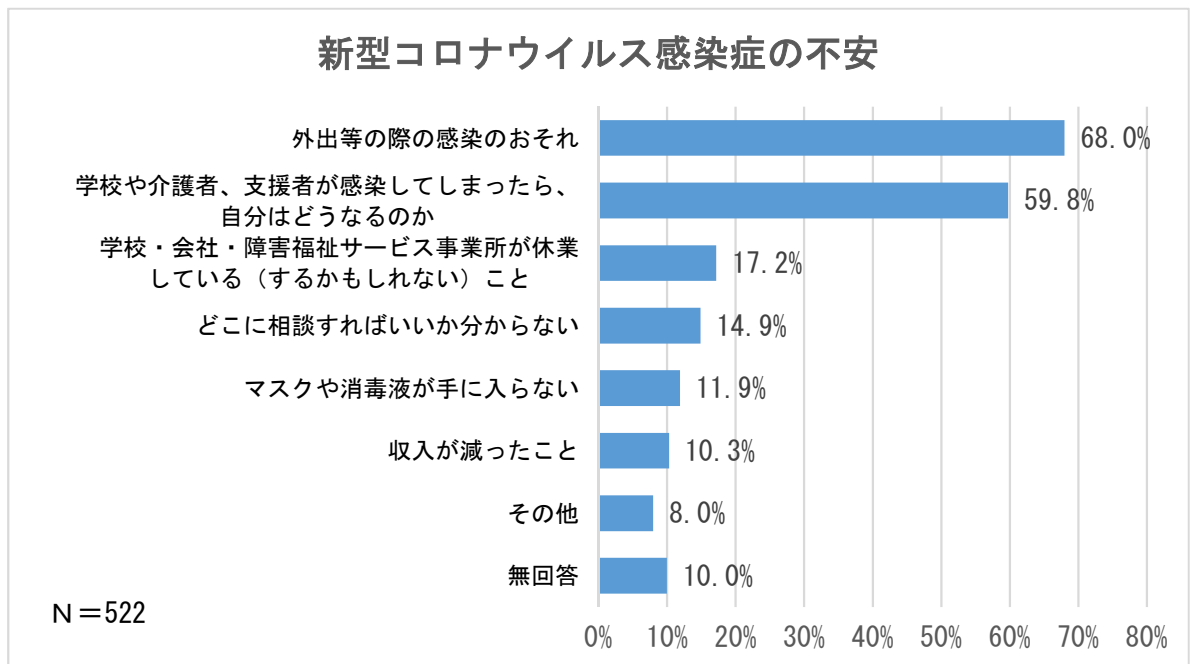


問18 地震や台風などの災害時に、どのようなことに心配や不安がありますか。  
(3つまで選択)



災害時における心配事や不安は「避難場所で必要な医療や介助が受けられるか」が52.5%で最も多くなっています。次いで、「避難所が障害者に配慮されているか」の51.7%、「災害に関する情報の入手」の33.0%、「どこに避難してよいかわからない」の28.0%、「避難する時に介助や支援をしてくれる人がいない」の21.8%と続いています。

問19 新型コロナウイルス感染症について、どのようなことに心配や不安がありますか。  
(3つまで選択)



新型コロナウイルス感染症についての心配事や不安は「外出等の際の感染のおそれ」が68.0%で最も多くなっています。次いで、「学校や介護者、支援者が感染してしまったら、自分はどうか」の59.8%、「学校・会社・障害福祉サービス事業所が休業している（するかもしれない）こと」の17.2%、「どこに相談すればいいかわからない」の14.9%、「マスクや消毒液が手に入らない」の11.9%と続いています。

## 2. クロス集計結果

### ア) 障害種別（区分：身体、知的、精神、複合、難病）

#### ●相談について

##### 問1 悩み事

悩み事について、全ての障害種別で「自分の老後のこと」という割合が多くなっています。次いで高い割合となるのが、精神以外の障害種別では「健康や身体のこと」、知的と難病以外の障害種別では「お金のこと」となっています。

	身体 (N=260)	知的 (N=70)	精神 (N=49)	複合 (N=79)	難病 (N=56)
進学や学校のこと	3.5%	5.7%	0.0%	1.3%	1.8%
人間関係のこと	7.3%	24.3%	26.5%	12.7%	3.6%
恋愛や結婚のこと	11.5%	7.1%	12.2%	11.4%	0.0%
就職や仕事のこと	23.1%	21.4%	36.7%	11.4%	5.4%
子育てや子どもの教育のこと	4.6%	1.4%	4.1%	0.0%	0.0%
家庭のこと	5.4%	1.4%	4.1%	7.6%	10.7%
自分の老後のこと	43.8%	38.6%	59.2%	48.1%	41.1%
親の老後のこと	12.7%	24.3%	32.7%	31.6%	3.6%
健康や身体のこと	36.5%	32.9%	26.5%	31.6%	58.9%
医療のこと	12.3%	7.1%	4.1%	21.5%	19.6%
福祉・保健サービスの利用のこと	12.7%	22.9%	8.2%	17.7%	0.0%
お金のこと	33.8%	21.4%	38.8%	24.1%	16.1%
住まいの確保のこと	4.2%	11.4%	0.0%	3.8%	0.0%
災害時の安全確保のこと	8.5%	7.1%	2.0%	21.5%	5.4%
その他	4.6%	5.7%	6.1%	2.5%	1.8%
悩み事はない	7.7%	10.0%	4.1%	5.1%	23.2%
無回答	6.2%	4.3%	0.0%	0.0%	5.4%

## 問2 悩みの相談先

悩みの相談先について、全ての障害種別で「家族」という割合が多くなっています。次いで多い割合となるのが、身体と難病以外の障害種別では「相談支援専門員や福祉施設の職員」となっています。

	身体(N=260)	知的(N=70)	精神(N=49)	複合(N=79)	難病(N=56)
家族	68.5%	45.7%	53.1%	41.8%	71.4%
相談支援専門員や福祉施設の職員	8.8%	51.4%	28.6%	30.4%	5.4%
障害者就業・生活支援センターの職員	4.2%	15.7%	28.6%	8.9%	3.6%
市役所・町役場の障害福祉担当職員	16.9%	18.6%	6.1%	19.0%	7.1%
医療機関の職員	10.4%	7.1%	28.6%	27.8%	19.6%
その他	8.8%	5.7%	4.1%	8.9%	1.8%
無回答	8.8%	5.7%	0.0%	2.5%	10.7%

## 問3 相談支援体制へ希望すること

相談支援体制について希望することについて、全ての障害種別で「どこに相談したら良いかわかりやすくしてほしい」が最も多くなっています。次いで、全ての障害種別で「身近な地域で相談できるようにしてほしい」の割合が多くなっています。

	身体(N=260)	知的(N=70)	精神(N=49)	複合(N=79)	難病(N=56)
どこに相談したら良いかわかりやすくしてほしい	65.0%	48.6%	65.3%	59.5%	39.3%
休日・夜間の相談ができるようにしてほしい	28.1%	27.1%	20.4%	19.0%	19.6%
身近な地域で相談できるようにしてほしい	31.9%	34.3%	40.8%	34.2%	26.8%
相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい	18.1%	27.1%	18.4%	30.4%	17.9%
相談窓口を一体化してほしい	18.1%	21.4%	26.5%	26.6%	23.2%
病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい	12.3%	17.1%	22.4%	24.1%	8.9%
その他	5.4%	2.9%	4.1%	0.0%	0.0%
無回答	11.5%	11.4%	8.2%	12.7%	19.6%

## ●障害者差別解消について

### 問4 差別の有無

障害があることでの差別の有無は、難病以外の障害種別では「ある」とした割合が約半分であったのに対し、難病では約1割程度となっています。

	身体(N=260)	知的(N=70)	精神(N=49)	複合(N=79)	難病(N=56)
ない	56.5%	42.9%	51.0%	34.2%	83.9%
ある	40.8%	55.7%	44.9%	60.8%	8.9%
無回答	2.7%	1.4%	4.1%	5.1%	7.1%

### 問5 差別を感じた時

差別を感じた時について、全ての障害種別で「障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった」の割合が最も多くなっています。また、難病では「理由の説明もなく対応してもらえなかった、または話を聞いてもらえなかった」がこれと同じ割合となっています。

	身体(N=106)	知的(N=39)	精神(N=22)	複合(N=48)	難病(N=5)
難しい言葉を聞き取りづらい言葉で対応された	34.0%	51.3%	27.3%	39.6%	20.0%
障害があることを理由に対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった	36.8%	53.8%	50.0%	43.8%	40.0%
理由の説明もなく対応してもらえなかった、または、話を聞いてもらえなかった	23.6%	38.5%	40.9%	41.7%	40.0%
通路や各種割引などのわかりやすい案内表示が無かった	34.9%	2.6%	18.2%	20.8%	0.0%
官公庁や商業施設などの入口にスロープがなかった、または、段差や急な階段があった	19.8%	5.1%	0.0%	22.9%	0.0%
官公庁や商業施設などに自分の障害に対応する設備を備えたトイレや休憩施設がなかった	17.9%	7.7%	4.5%	14.6%	20.0%
無回答	12.3%	5.1%	18.2%	10.4%	20.0%

## 問6 差別に関する相談先

差別に関する相談先について、全ての障害種別で「家族に相談した」の割合が多くなっています。これとともに多い割合となるのが、全ての障害種別で「だれにも相談していない」となっています。

	身体 (N=106)	知的 (N=39)	精神 (N=22)	複合 (N=48)	難病 (N=5)
家族に相談した	35.8%	59.0%	59.1%	56.3%	20.0%
相談支援専門員や福祉施設の職員に相談した	1.9%	10.3%	9.1%	2.1%	20.0%
栃木県や市町の障害者差別に関する相談窓口相談した	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
医療機関の職員に相談した	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	40.0%
差別を受けた相手方に伝えた	2.8%	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%
だれにも相談していない	51.9%	25.6%	18.2%	29.2%	20.0%
無回答	6.6%	5.1%	4.5%	8.3%	0.0%

## 問7 差別に関する相談をしない理由

差別に関する相談をしない理由について、精神以外の障害種別で「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も多くなっています。精神で最も割合が多いのは「障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった」となっています。

	身体 (N=55)	知的 (N=10)	精神 (N=4)	複合 (N=14)	難病 (N=1)
障害者差別に関する相談窓口があることを知らなかった	32.7%	0.0%	75.0%	21.4%	0.0%
相談するほどのことではないと思った	40.0%	60.0%	0.0%	35.7%	100%
誰にも知られたくなかった	9.1%	10.0%	0.0%	21.4%	0.0%
その他	18.2%	30.0%	25.0%	21.4%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ●暮らしについて

### 問8 どのように暮らしているか

現在、どのように暮らしているかについて、全ての障害種別で「家族と暮らしている」の割合が最も多くなっています。次いで割合が多いのが、知的と複合では「福祉施設で暮らしている」、それ以外では「一人で暮らしている」となっています。

	身体(N=260)	知的(N=70)	精神(N=49)	複合(N=79)	難病(N=56)
一人で暮らしている	10.8%	2.9%	6.1%	3.8%	8.9%
家族と暮らしている	82.7%	65.7%	87.8%	77.2%	82.1%
グループホームで暮らしている	1.5%	14.3%	2.0%	5.1%	0.0%
福祉施設で暮らしている	1.5%	15.7%	0.0%	7.6%	3.6%
病院に入院している	2.7%	1.4%	4.1%	6.3%	3.6%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
無回答	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### 問9 今後の暮らし

今後どのように暮らしたいかについて、全ての障害種別で「家族と一緒に暮らしたい」の割合が最も多くなっています。次いで割合が多いのが、身体、精神、難病では「一般住宅で一人暮らしをしたい」、複合と難病では「福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」、知的では「グループホームで暮らしたい」となっています。

	身体(N=260)	知的(N=70)	精神(N=49)	複合(N=79)	難病(N=56)
一般住宅で一人暮らしをしたい	14.6%	7.1%	20.4%	10.1%	10.7%
家族と一緒に暮らしたい	75.4%	54.3%	73.5%	54.4%	75.0%
グループホームで暮らしたい	1.2%	17.1%	4.1%	7.6%	0.0%
福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい	3.5%	14.3%	2.0%	20.3%	10.7%
その他	3.5%	4.3%	0.0%	5.1%	1.8%
無回答	1.9%	2.9%	0.0%	2.5%	1.8%

## 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援

希望する暮らしを送るために必要だと思うことで割合が最も多いのは、全ての障害種別で「経済的負担の軽減」となっています。次いで割合が多いのは、難病以外の障害種別では「障害者に適した住居の確保」、難病では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」となっています。

	身体 (N=260)	知的 (N=70)	精神 (N=49)	複合 (N=79)	難病 (N=56)
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	25.0%	12.9%	20.4%	32.9%	41.1%
障害者に適した住居の確保	26.9%	32.9%	28.6%	40.5%	3.6%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	27.3%	20.0%	20.4%	24.1%	48.2%
生活訓練等の充実	5.4%	27.1%	12.2%	13.9%	7.1%
経済的負担の軽減	59.6%	57.1%	75.5%	55.7%	62.5%
相談対応等の充実	26.2%	31.4%	22.4%	26.6%	21.4%
地域住民等の理解	15.8%	27.1%	28.6%	13.9%	1.8%
コミュニケーションについての支援	9.2%	20.0%	20.4%	17.7%	1.8%
その他	3.8%	4.3%	10.2%	5.1%	1.8%
無回答	8.8%	7.1%	2.0%	6.3%	19.6%



## ●就労について

### 問12 仕事をしたことの有無

仕事をしたことの有無については、身体、精神、難病では「現在、仕事をしている」が4割以上となっており、知的と複合では「仕事をしたことがあるが、現在はしていない」が4割以上となっています。

	身体 (N=260)	知的 (N=70)	精神 (N=49)	複合 (N=79)	難病 (N=56)
現在、仕事をしている	58.1% (1位)	38.6% (2位)	42.9% (1位)	24.1%	44.6% (2位)
仕事をしたことがあるが、現在はしていない	32.3% (2位)	18.6%	34.7% (2位)	30.4% (2位)	50.0% (1位)
仕事をしたことがない	6.5%	42.9% (1位)	22.4%	44.3% (1位)	3.6%
無回答	3.1%	0.0%	0.0%	1.3%	1.8%

### 問13 仕事を続けるために必要な配慮

仕事を続けるために必要な配慮については、全ての障害区分で「職場の障害理解」、「職場に相談できる人がいてほしい」の割合が多くなっています。

	身体 (N=260)	知的 (N=70)	精神 (N=49)	複合 (N=79)	難病 (N=56)
通勤手段の確保	26.5%	45.7%	44.9%	35.4%	28.6%
通院時間の確保	23.8%	14.3%	30.6%	19.0%	32.1%
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	20.4%	7.1%	4.1%	16.5%	21.4%
短時間勤務や勤務日数等の配慮	31.2%	28.6%	34.7%	34.2%	39.3%
職場に相談できる人がいてほしい	39.2%	52.9%	71.4%	41.8%	32.1%
在宅勤務の拡充	19.6%	10.0%	26.5%	12.7%	17.9%
職場の障害理解	57.3%	67.1%	69.4%	58.2%	41.1%
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	23.5%	45.7%	57.1%	31.6%	12.5%
その他	4.2%	7.1%	0.0%	10.1%	1.8%
無回答	14.2%	14.3%	4.1%	30.4%	32.1%

## 2. クロス集計結果

イ) 年齢（区分：17歳以下、18～39歳、40～64歳、65歳以上）

### ●暮らしについて

問8 どのように暮らしているか

どこで暮らしているかについて、全ての年齢区分で「家族と暮らしている」が7割を超え最も多くなっています。次いで割合が多いのは、17歳以下及び65歳以上では「福祉施設で暮らしている」、40～64歳では「一人で暮らしている」となっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=182)	40～64歳 (N=259)	65歳以上 (N=53)
一人で暮らしている	0.0%	4.9%	10.8%	5.7%
家族と暮らしている	88.0%	80.2%	78.8%	79.2%
グループホームで暮らしている	0.0%	7.7%	2.7%	0.0%
福祉施設で暮らしている	12.0%	2.2%	4.2%	9.4%
病院に入院している	0.0%	3.3%	3.1%	5.7%
その他	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	1.1%	0.4%	0.0%

問9 今後の暮らし

今後の暮らしについて、全ての年齢区分で「家族と一緒に暮らしたい」の割合が最も多くなっています。次いで、17歳以下、18～39歳及び40～64歳では「一般住宅で一人暮らしをしたい」、65歳以上では「福祉施設で暮らしたい」の割合が多くなっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=182)	40～64歳 (N=259)	65歳以上 (N=53)
一般住宅で一人暮らしをしたい	12.0%	18.1%	11.2%	1.9%
家族と一緒に暮らしたい	60.0%	59.3%	74.5%	84.9%
グループホームで暮らしたい	8.0%	8.2%	2.3%	0.0%
福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい	12.0%	8.2%	7.7%	7.5%
その他	8.0%	3.3%	2.3%	3.8%
無回答	0.0%	2.7%	1.9%	1.9%

## 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援

希望する暮らしを送るために必要な支援で割合が最も多いのは、全ての年齢区分で「経済的負担の軽減」となっています。次いで、17歳以下、18～39歳及び40～64歳では「障害者に適した住居の確保」、40～64歳では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」、65歳以上では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること」の割合が多くなっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=182)	40～64歳 (N=259)	65歳以上 (N=53)
在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	12.0%	20.3%	27.8%	37.7%
障害者に適した住居の確保	40.0%	34.6%	26.3%	5.7%
必要な在宅サービスが適切に利用できること	4.0%	23.1%	31.7%	34.0%
生活訓練等の充実	32.0%	12.1%	8.5%	7.5%
経済的負担の軽減	68.0%	65.4%	59.8%	43.4%
相談対応等の充実	16.0%	21.4%	31.3%	22.6%
地域住民等の理解	32.0%	19.8%	13.5%	13.2%
コミュニケーションについての支援	20.0%	14.8%	11.6%	5.7%
その他	8.0%	4.4%	3.9%	0.0%
無回答	4.0%	7.7%	8.1%	18.9%

## ●障害者スポーツについて

### 問14 スポーツを行っているか

スポーツを行っているかについては、全ての年齢区分で「行っていない」が約5割となっており、次いで、「過去に行っていたがやめた」の割合が多くなっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=182)	40～64歳 (N=259)	65歳以上 (N=53)
週に3回以上	12.0%	2.7%	4.2%	13.2%
週に1～2回	8.0%	8.2%	3.9%	11.3%
月に1～3回	4.0%	3.8%	3.9%	1.9%
年に数回程度	0.0%	10.4%	4.2%	1.9%
過去に行っていたがやめた	16.0%	16.5%	19.7%	17.0%
行っていない	52.0%	56.6%	62.2%	49.1%
無回答	8.0%	1.6%	1.9%	5.7%

### 問15 スポーツを行わない理由

スポーツを行わない理由で最も割合が多いのは、17歳以下では「どうすればスポーツを始められるかわからない」、18～39歳、40～64歳及び65歳以上では「身体等の理由からスポーツを行うことができない」等となっています。

	17歳以下 (N=25)	18～39歳 (N=182)	40～64歳 (N=259)	65歳以上 (N=53)
どのようなスポーツがあるかわからない	8.0%	14.3%	13.1%	3.8%
どうすればスポーツを始められるかわからない	36.0%	15.9%	12.4%	1.9%
スポーツの指導者がいない	24.0%	11.5%	5.4%	0.0%
スポーツができる場が近くにない	16.0%	26.9%	13.1%	15.1%
スポーツに興味がない	8.0%	21.4%	17.8%	9.4%
身体等の理由からスポーツを行うことができない	12.0%	26.9%	40.5%	37.7%
その他	32.0%	9.3%	10.0%	9.4%
無回答	20.0%	22.5%	20.5%	41.5%

## 2. クロス集計結果

### ウ) 障害保健福祉圏域（区分：居住市町により6つの地域別）

#### ●相談先等について

#### 問2 悩みの相談先

悩みの相談先については、全ての圏域において「家族」の割合が最も多くなっています。次いで、  
 県東圏域では「医療機関の職員」、両毛圏域では「市役所・町役場の障害福祉担当」、それ以外の  
 4圏域では「相談支援専門員や福祉施設の職員」の割合が多くなっています。

	宇都宮圏域 (N=138)	県西圏域 (N=51)	県東圏域 (N=28)	県南圏域 (N=110)	県北圏域 (N=79)	両毛圏域 (N=109)
家族	54.3%	47.1%	67.9%	60.0%	60.8%	68.8%
相談支援専門員や福祉施設の職員	18.1%	19.6%	7.1%	27.3%	29.1%	8.3%
障害者就業・生活支援センターの職員	10.9%	9.8%	7.1%	11.8%	7.6%	5.5%
市役所・町役場の障害福祉担当	8.0%	19.6%	10.7%	16.4%	16.5%	21.1%
医療機関の職員	15.2%	15.7%	28.6%	13.6%	8.9%	19.3%
その他	8.7%	17.6%	10.7%	2.7%	3.8%	7.3%
無回答	6.5%	9.8%	10.7%	10.0%	3.8%	3.7%

#### 問3 相談支援体制へ希望すること

相談支援体制へ希望することで割合が最も多いのは、全圏域で「どこに相談したら良いかわかりやすくしてほしい」となっています。次いで、「身近な地域で相談できるようにしてほしい」、「休日・夜間の相談ができるようにしてほしい」が各圏域で高い割合となっています。

	宇都宮圏域 (N=138)	県西圏域 (N=51)	県東圏域 (N=28)	県南圏域 (N=110)	県北圏域 (N=79)	両毛圏域 (N=109)
どこに相談したら良いか、わかりやすくしてほしい	60.9%	51.0%	60.7%	54.5%	65.8%	62.4%
休日・夜間の相談ができるようにしてほしい	28.3%	17.6%	14.3%	30.9%	27.8%	22.9%
身近な地域で相談できるようにしてほしい	27.5%	31.4%	42.9%	29.1%	31.6%	42.2%
相談員の質（知識・相談技術等）を向上させてほしい	22.5%	17.6%	14.3%	22.7%	19.0%	22.9%
相談窓口を一本化してほしい	19.6%	15.7%	28.6%	23.6%	24.1%	19.3%
病院・福祉施設等による訪問相談をしてほしい	12.3%	11.8%	39.3%	20.9%	7.6%	16.5%
その他	4.3%	11.8%	0.0%	0.9%	2.5%	3.7%
無回答	10.1%	23.5%	7.1%	12.7%	5.1%	13.8%

### 3 その他（自由記述欄）の内容のまとめ

#### 問1 現在の悩み事

- ・年金は貯金しているが生涯まかなえるかなど。
- ・将来歩けなくなった時の不安
- ・東京までの通院
- ・自分の今後
- ・急に人口内耳が壊れた場合のこと。
- ・災害時の補助用具確保のこと（パウチ）。
- ・介護してくれている兄弟の健康のこと。
- ・将来、親が自分の介護ができなくなったときのこと。
- ・親の死後
- ・将来、自立できるかどうか。
- ・一人の生活なので心配。
- ・一人っ子のため親亡きあとが心配。（親はいつでも元気と思っている様子）
- ・今後の生活維持
- ・身近に気軽に相談できる機関がない。悩みを聞いてもらったり、困ったときすぐ行って話ができる人がいない。親が死んだら生活していくことができなくなると思うのでそれが困る。
- ・高校卒業後のこと。
- ・自傷のこと。
- ・受け入れてくれる施設がない。
- ・行政に対しての不満

#### 問2 悩みの相談先

- ・福祉介護相談センターケアマネージャー
- ・ヘルパー、訪問介護、主治医
- ・病院の先生
- ・ピュアカウンセリング
- ・民生委員
- ・ボランティア関係者
- ・手話通訳者（奉仕）
- ・弁護士
- ・学校の先生
- ・友人
- ・インターネットで情報を集める。
- ・中途失明のため、自分では相談の連絡が取れない。
- ・相談する人がいない。
- ・相談できる人がいない。相談の仕方がわからない。
- ・市の人に相談しても人によって良いアドバイスを頂けない時がある。
- ・現状、医療費の助成以外は生活についての手当てがほとんどなく、無理して仕事をしてお金を稼がないと成り立たない。誰も頼れない。
- ・必要ない。

### 問3 相談支援体制へ希望すること

- ・娘が一時抑うつ状態になったことがあり、不安がとでも強く夜が困った。安心できるところに相談がしたくて”いのちの電話”に何回もかけてやっとながったことがある。夜間の電話相談があると助かる。
- ・フォーマルだけでは解決しない。相談員の限界がある。
- ・福祉施設サービスの種類、内容などが相談前に分かると良い。
- ・友人に年金受給をよく思わず申請してない人がいる。家族に知られないよう、自己申請しやすくしてほしい。他にも障害年金があることを成人しても知らなかった。
- ・自宅への訪問相談
- ・一人暮らしに対応する体制を整えてほしい。
- ・災害時どこに相談したら良いか。
- ・パソコンやスマホが苦手でも、相談支援体制に関する情報が取得しやすいと有難い。
- ・医療、福祉、行政までの連携をしてほしい。
- ・満足している。

### 問7 差別の相談を誰にもしない理由

- ・相談しても解決する事ではないと思った。
- ・相談だけで終わってしまい改善しないと思う。
- ・相談しても仕方がないので諦めた。
- ・相談しても何もわからないから。
- ・誰かに相談しても良い返事がないと思っていた。
- ・相談しても対応してもらえない。寄り添ってもらえない。一言に頑張るとしか言ってもらえない。
- ・理解できないため。相手が理解できない事を話しても何の解決にもならない。親でさえ心無い言葉を無意識に言うため、他人に話しても無駄だと思う。
- ・自分で解決することが可能だと判断した。
- ・ある程度は我慢する。
- ・一人暮らしのため。
- ・言ったら怒られそうで怖かった。
- ・自分が悪いと病気になったのが悪いと思った。
- ・見下されたような気がした。
- ・相談していいか迷い出来なかった。

### 問8 どのように暮らしているか

- ・デイサービスを利用している。
- ・一人暮らしだが、大学がオンライン授業なので実家で家族と暮らしている。
- ・シングルマザーとして生活をしている。

### 問9 今後どのように暮らしたいか

- ・市営住宅
- ・実家に戻る予定だが将来は分からない。
- ・自分の家（家族所有）があるため、家族がいなくなった場合に自宅で生活をしたい。
- ・一般住宅で暮らしたい気持ちはあるが一人では厳しい。
- ・婚約中なので、入籍して家族とずっと暮らしたい。できたら子供がほしい。
- ・仕事しているうちは一人暮らし、仕事が出来なくなれば福祉施設あるいはグループホームで暮らしたい。

- ・本人は家族とずっと暮らしたいと思っているが、いずれは施設に入所と親としては考えている。
- ・2022年に開設される「那須まちづくり広場」のようなところで暮らしたい。
- ・耳が聞こえない人だけの施設で暮らしたい。

#### 問10 希望する暮らしを送るために必要な支援

- ・日常生活への支援
- ・支援員不足、施設不足の解消
- ・通勤の支援
- ・休日や夜などでも相談できるところがあると良い。
- ・保証人がついてくれる支援
- ・公的機関による資産管理
- ・健常者と同じく年金を支払うことはとても不安である。
- ・予定外の通院同行介助
- ・問診が主なのでビデオ通話などのオンライン診療ができると良いと思う。採決は近場の病院で採り、データを他の病院に送れると良いと思う。問診と採血だけのために遠くの病院まで行くのは負担になる。
- ・親の老後をどうするか。一番の望みは親の老後、親も子も一緒に入れる施設があるのが理想である。
- ・障害者就業の充実
- ・障害者への厚い就職支援
- ・仕事に就けること。
- ・自分の障害でもできるような仕事を紹介してくれる場がほしい。
- ・テレワークを主としての仕事に切り替えたい。情報をどこから入手したら良いのか分からない。

#### 問11 保育・療育・教育環境に希望すること

- ・県のプールの更衣室は母親と一緒に入って着替えや脱衣を手伝えないことがネックで、プールに通えなくなり、水泳を止めてしまった。障害者向けの更衣室があったらとても嬉しい。
- ・小学生位の年齢までの障害のある人とない人が交流することはお互いの理解にとっても大切だと思う。小さい子供が障害のある人を自然に受け入れてくれるのはびっくりするほどである。
- ・25歳になった息子の小さい時は、障害のある人の学童などはなかった。仕事がしづらかったが今は増えていたらお母さんも働けると思う。
- ・学校の親の付き添いを求めない。支援員をつける。
- ・OB（卒業生）との交流
- ・高校卒業後、進学したときの相談やサービスの充実
- ・社会の理解
- ・リハビリを受けたい。（手、足、言語）

#### 問13 仕事を続けるために必要な配慮

- ・障害者が起業できるような支援、情報提供、窓口
- ・職場介助
- ・職場の従業員の中に医療や福祉との繋がりがある人を配置してほしい。
- ・コミュニケーションの充実、情報がすぐに出るSNSや紙の提示。
- ・事業者の特に上の方が、病気を理解できなくても寄り添い、病気を持ちながら働く人を理解しようとする、できる範囲でサポートする気持ちが必要である。
- ・仕事量の調整
- ・トイレに時間がかかることを理解してほしい。
- ・寮などのある職場があれば良い。



- ・通勤電車での2駅程度の短距離だと運賃減額がない。
- ・同年代と同じ水準の給与
- ・職場がない。
- ・継続していけば…。

#### 問15 スポーツを行えない理由

- ・プール活動をしたいが、スイムパンツ使用可のプールが県内で1ヶ所しかない（予約制で混んでいるため）。
- ・水泳以外で他にどんな障害者向けのスポーツをやっている場所があるか情報を知らない。
- ・自己流で泳いでいるため、なかなか進歩しづらかった。
- ・水泳の場合、異性同士の親子だと一緒に入れる更衣室がない。衣服の着脱や持ち物の整理を手伝えるように、障害のある人と同伴者が一緒に入れる更衣室があれば良かったと思う。
- ・スポーツ会場へ親の付き添いはできない。
- ・障害があるとなかなか受け入れてもらえない。
- ・やらせてあげたいが、ルールを覚えるなど難しく、コミュニケーションが取りづらい。近くに障害者が利用できるような施設がない。
- ・障害者（自閉症）向けのスポーツ教室がない。
- ・ヘルニアの手術後、スポーツは何ができるのか興味がある。
- ・時間の確保（休日は休みたいため、平日が良い。）
- ・仕事がメインで他の時間は休息や家事に当てている。
- ・散歩、買物が楽しいため。
- ・時間がない。
- ・時間とお金がない。
- ・金銭的理由でできない。
- ・仕事があるため体力的に困難である。
- ・運動制限があるため。
- ・視力不良のためスポーツしづらい状況である。体操なら可能だと思う。
- ・呼吸するので精一杯である。
- ・身体的に無理な状態である。
- ・入院中のため動けない。
- ・体力低下でやめた。
- ・体内の維持装置が転ただけで故障してしまうため、改良が必要である。
- ・コロナの為、外に出るのが怖い。
- ・コロナで出来ない。
- ・プールに通っていたがコロナの今、行くのは控えている。
- ・集団スポーツのため、コロナの感染リスクがあるため中止した。
- ・自分ができるものがあるのか分からない。
- ・遊び程度ならできる。（キャッチボール）
- ・散歩から始めたいとは思っているが一歩が踏み出せない。
- ・フリスビーをやっていたが方向が定まらず相手にぶつかってしまい迷惑をかけるのでやめてしまった。
- ・できたとしても、車がない。
- ・夏だけ行っていた。

## 問18 災害時の不安

- ・非難する場所が自宅から遠い。
- ・親がいないと避難できない。
- ・周りに山や川がないので自宅にいると決めている。
- ・できるだけ自宅で様子を見る。
- ・人混みに行きたくない。
- ・障害者がここに住んでいるという情報は避難所で把握できているか。
- ・電源の確保
- ・特殊電池、電源の確保、200V
- ・人口内耳が充電式であるため、長期充電の場合に対応できるか。
- ・毎日飲み続ける必要があるため、薬を必ず持って逃げること。
- ・薬が必要不可欠なので心配している。
- ・薬などが避難所にあるか。
- ・必要な食事、水分（とろみ付）が確保できるか。
- ・腸の病気なので食べられる物が限られ、避難所での暮らしが不安である。
- ・避難所で案内してくれる人の声が聞けない。
- ・特に息子の場合、音が苦手な赤ちゃんの泣き声やくしゃみなどが辛い場所があるか心配である。
- ・避難所の場所で落ち着いていられるか分からない。
- ・治療が継続できるか。
- ・家の破損。お金が発生するのが怖い。

## 問19 新型コロナウイルス感染症の不安

- ・一般の方より、かかった時に重症化しやすいのか。
- ・自分の疾患がどのくらい重症化リスクが有るのか。
- ・難病のため重症化する恐れがあり日常生活での対応が難しい。
- ・重症化リスクが高く怖い。検査及び治療が受けられるか不安。
- ・PCR検査を定期的にうけたい。
- ・熱が出ても、誰に相談すれば良いのかわからない。
- ・感染しないように自己管理している。
- ・病院から感染者が出て病院が閉鎖され薬が手に入らないこと。
- ・病院に行くのが怖い。
- ・病院や仕事場で感染しないか心配。
- ・介護施設を利用したいが基礎疾患があるので感染が怖い。
- ・かかりつけの病院でみて頂けるのか。
- ・マスクをつけられない人への配慮、マスク以外の手段の提起。
- ・マスクを嫌がり取ってしまうため外出はできない。指定難病をもっているため感染が怖い。
- ・医療機関に行ってもマスクだけで対応に不安を感じるし情報が得にくい。
- ・他人との会話がスムーズにできない。
- ・福祉施設と自宅と保護者の会社以外外出しないようにしている。
- ・入院中の為会っていない。家族と面会できない。
- ・感染拡大防止のため制限されていること。感染の恐れがあり帰省できない。親族との面会ができない。
- ・職場で感染が出た場合でも最少の人数で回していける方法を検討している。
- ・感染したときの生活の仕方。
- ・自分（一人暮らし）がかかった場合の家の管理（入院期間）。

- ・自分が感染してしまったら、収入が減ってしまう。職場が営業できなくなってしまうかもしれない不安。（仕事の不安）
- ・パウチ等の処理について
- ・ヒュミラを打つ時の消毒液が手に入らない。
- ・親の病気が難病のため、自分のことを気にしてもらえない。
- ・自分が感染源になる事が怖い。
- ・いつまで続くのか。

## 問 20 御意見御要望

【日常生活で困っていること（新型コロナウイルスへの対応など）】

（新型コロナウイルス感染症予防対策用品、PCR検査について）

- ・どこへ行ってもアルコール消毒を行っているが、アレルギーで赤くなってしまうので違うモノでの消毒液を置いてほしい。
- ・手の除菌は入り口の目立つところにあることが望ましい。
- ・マスクの調達
- ・現在不足している、ゴム手袋、おしり拭き等の拡充。
- ・夏のマスク着用により心臓や肺への負担がかかっていると思われる。フェイスシールドやマウスシールドは周囲の目が気になる。
- ・秋冬にかけてインフルエンザやコロナ感染が増えてきた時に不織布マスクやアルコール消毒が再び入手できなくならないか不安。
- ・医療、福祉、学校、保育職員に定期的にPCR検査を行ってほしい。※東京のどこかの区で行う予定
- ・新型コロナウイルスの検査を拡大してほしい。心配になり検査を受けようとしても自費では高すぎる。
- ・ウイルスに感染したらすぐにPCR検査できるか。また、家庭内感染した場合入院はできるか。家族が感染したときどうしたらいいのか。

（コロナ禍における面会や外出等について）

- ・コロナのため、面会できず約半年顔も見られない状況。病院の方には変わらないと言われているが、やはり顔を見て話したい。話は出来ないが、会えないのは寂しい。
- ・ウイルス感染防止のため1回の面会時間が5分間に制限されるため、面会に来た人と十分な意思疎通が図れない。
- ・親の介護施設への訪問がまだできない。病院への通院がままならない。
- ・施設によっては冷暖房をあまりしてくれない。預ける時間がコロナウイルスによって短縮されている。
- ・障害があることによる生活行動領域が少ないうえ、コロナウイルスによる感染への不安からさらなる生活行動が制限されていること。
- ・重症化リスクの不安から引きこもりがちな生活である。介護者の親も運動不足、親自身の病院も感染を家庭に持ち込みそうで尻込みしている。ワクチンよりも、希望すれば検査が出来る環境になる事を望む。
- ・障害を持つ子供が感染してしまったらと思うと不安で家族全員、学校、仕事など以外の不要不急な外出は控えているが、周りのコロナ感染リスクの考えの甘さにストレスを感じている。
- ・コロナで急な休校があり日常に変化があると本人も学校へ行きたがらないため、急な変化は大変なところがある。
- ・コロナウイルスで出掛けることが出来ず、一人暮らしであるため家にいると孤独を感じ嫌である。

- ・もしコロナにかかってしまい、買物などに行けなくなったときは、どうすればいいのか。入院になったとき、飼っているペットはどうなるのか。
- ・コロナで外出ができない。
- ・外出の機会がなくなった。

(コロナ禍における就労等について)

- ・コロナでなかなか外出もできず、転職も難しいため先が不安。
- ・仕事と体調のバランスを考えると長時間働くことは難しく、収入に不安がある。今の仕事を続けていけるか不安。マスクや消毒などにお金がかかるようになった。
- ・新型コロナウイルスの影響で仕事が減っている。今後の仕事があるかが心配。
- ・障害者年金がいつ打ち切られるか心配。コロナの関係もあり再就職が困難（重度障害ということもあり面接すらしてもらえない）。通院の際に公共交通を利用しているのでコロナ感染が怖い。
- ・職場でコロナにかからないか心配。

(新型コロナウイルス感染症に関する情報の取得等について)

- ・コロナに関して韓国のような感染に関する詳細なマップ、近辺（周辺）の情報が得られるようにしてほしい。
- ・障害者が感染した場合の「手順ルート」の情報がない。ニュースなどは健常者をケースにしているようなので、できれば障害者をケースにした体制など周知してほしい。（事前に気持ちの準備ができるため）
- ・耳が悪いので感染した場合にどうやって連絡すればいいのか分からない。わかりやすく連絡できるように地域にも相談出来る所があると良い。
- ・コロナ感染の可能性がある場合、一番に連絡すべきところが分かりづらいので不安。重症化しやすいかもしれないのですぐに入院できるのかも不安。
- ・ウイルスにかかってしまった後、保健所へ連絡→病院などと時間がかかる間に自分の病気の場合死に至ると思う。
- ・コロナウイルスの情報を障害のある人にもわかりやすく伝えてほしい。
- ・県、市のホームページの情報が少ない。速報性もない。（コロナ感染等）
- ・スーパーやレジにて天井から下げるパーテーションがあるが、自分の顔まで届いておらず不安に感じる時がある。（車椅子の方など同じだと思います）
- ・聴力に障害があるため、コロナでマスクを使用している人の言葉が聞き取れない。
- ・コロナで皆がマスクをしているので会話が難しく、マスクを外してもらうことが申し訳なく思う。職場の人達には、フェイスシールドを買って配って見たら一部使ってくれる人もいたので嬉しかった。
- ・コロナの影響でマスク着用のため、紙で対応してくれる人がいなくてコミュニケーションができないこと
- ・コロナになってから皆マスクをしているので相手の口の形が見えず、分かりにくい。
- ・近所付き合いができない。聴覚障害者を理解できない人が多い。（補聴器付けていれば聞こえると思っている。）マスクをつけているので会話できない。筆談するしかない。
- ・マスクをしているため、会話が聞きとりづらく内容が分からないことが多くなり買物など辛くなってきた。7月からエコバックの有無を聞かれるのでストレスを感じる。

(新型コロナウイルス感染症に関するその他の御意見)

- ・コロナ感染しない、させない、を心がけて行動しているがいつまで続くのか分からずストレスを抱えている。早く落ち着くことを願っている。

- ・コロナ感染だけでなく、私自身に何か起きた場合子供はどうなるのか常に心配である。コロナウイルスに関して自分で出来る事はしている。
- ・コロナウイルスに感染したら一人では入院できない。その場合はどうしたら良いのか分からない。また、日常母が家事をしているが、母が感染したら困る。
- ・毎晩免疫を抑える薬を飲んでいるがコロナに感染しないかととても心配である。
- ・新薬、抗ウイルス薬の開発、認可が進み安全性の確保がされるまで不自由な状態が続くことが憂鬱。万が一の場合すぐに対応してもらえるか不安。
- ・体調が悪くなった時に、皆コロナで大変なのにと考えると余計に考え込んでしまって体調が悪くなる。
- ・難病の症状で救急車を呼んだ時に隊員の方がコロナだとか大きな声を出し、近所の人に聞かれ嫌な思いをしたことがあり、救急車を呼ぶにも呼べない。
- ・公共交通機関（電車）車内でのマスク等の使用の時期はいつまでなのか。
- ・公衆トイレのコロナ対策
- ・アメリカの最先端医療を行っており、コロナ禍でアメリカの渡航制限で体内の機械のメンテナンスの部品も届かないため今後は心配。最先端は日本はまだまだである。

#### （障害及び障害者理解について）

- ・障害者の理解がされていない。
- ・障害がある人への対応ができていない所、できていない所があるのでちゃんとしてほしい。
- ・周りが理解がなく、知的、精神、発達の人たちはトラウマの大人が多く、カウンセリングが必要だと思う。
- ・店に入る際に見た目に障害があると分からないために以後の入店を拒否されたことがある。店長からの誤解があったため。
- ・もっと視覚障害者が分かりやすい情報がほしい。障害者だからといって受け入れてくれない病院があった。
- ・いじめがある。自分と自分の周りの仲良くしている子（支援学級内、及び交流クラス内）。勉強に対しての悩みや不安。
- ・身体障害に甘えるつもりはないが、やはり周りの人たちに言わないと伝わらない部分もあり、しかし打ち明けることに不安も感じる。
- ・言葉が上手く話せず、周りとのコミュニケーションが取りづらいため、他害行為がでてしまうこと
- ・高次脳機能障害で物事等、忘れてしまうため、人間同士のコミュニケーションが上手くいかない。
- ・一般の方は補聴器を着けていれば聞き取れると思っている人が多く、実際は聞き取れないことも多く、人とのコミュニケーション上、誤解が生じたり相手の方をイライラさせてしまったりして嫌な思いをすることがある。聴覚障害はパッと見てすぐ分かる障害ではない点も難しい。私の場合、中途半端に聞き取れるので声質によって会話がスムーズの時と、頷くだけの時がある。「人によって対応が違う」と思われてしまうのではという不安が常にある。
- ・学校に行っているときは学校の先生に相談できたが、卒業してしまい施設の送迎を利用すると、相談できることができなくなったように感じる。特別支援学校（盲学校）に行くと地域の人との交流もなく孤独しているように思う。地域の中に入る難しさを感じる。
- ・コミュニケーションが十分に取れないため常に誰かの介護が必要である。生活変化の対応が難しくショートステイ等のサービスも利用できない。常に不安がつきまとう。
- ・雪が降った時に歩道までは雪かきがされず、また雪がたまり、車いすでは移動できなくなってしまう。
- ・電車でまだ電子TVがない路線がある。停まった時や遅延の情報が分からなくて困る場面がある。（アナウンスが分からない）

- ・全般的に思いやり駐車スペースが少ないのでもう少し増やしていただければと思う。
- ・スーパーなどの思いやり駐車スペースで車いすの場所にカードを出していないで停めている車が多い。足が不自由な人は買物に行くのも大変なのに駐車場が遠いとさらに大変。

#### (暮らしについて)

- ・福祉サービスの利用を充実してほしい。駅までの交通機関の利用を増やしてほしい。
- ・デイサービスの送迎
- ・病院などがかかりにくい。
- ・体調不良になってしまうので長時間働けず仕事ができないため収入が少ない。それでも国保や生活費は高いのでやっと生計が成り立っている。
- ・生活保護、障害者年金、仕事の収入で生活をしているが、仕事の収入で控除される金額が少ない。将来のため、今後のため、貯金したいが、余裕はない。いざお金が必要になった時どうすればいいのか。働く意欲も低下する。
- ・宿泊施設がないため、介助者が介助できない状況になった時の事を考えると不安。医ケアに対応できる施設で宿泊できる事、日頃より通所し職員に慣れて頂き、必要な時に利用できる環境を整えたいが今の現状では、先が見えない。優先的に考えてもらいたい。
- ・現在 HOT を使用しながら理解のある職場にて勤務しているが、就職を探すのにも指定就労日数を満たさないと採用してもらえないというところがとても多い。障害といっても私のように発作性でいつ起きてしまうのか分からず急な休みや入院に対応してもらえないと就労できないのは病院にも経済的な面から通えなくなってしまうのではないかと不安である。県には就労先にもっと障害者の枠を増やして頂けるのであれば、「決められた日数を確実に働く」のではなくいつ休んでも自分が戻れる安定した場所の確保の充実をぜひお願いしたい。私の病気は難病指定されておらず、主治医も治療方針に難を示しているのが現状であるため軽快は望んでいないが、一社会人としてもっと働きたい。ご検討、よろしくお願い致します。
- ・交通の不便を感じる。
- ・車に乗れないこと。
- ・電車に乗って移動するのが心配でずっと乗っていない。蔵タクがあるため、父が車で病院などに行く時は助かっている。もう少し時間がのびて午後5時まで運行してもらえたらうれしい。
- ・運転免許が取得できない障害であるため、移動に困っている。このような障害者に手厚い支援を希望する。

#### (その他の御意見)

- ・十分な収入がない。交通の便が悪い。(通院等)
- ・エレベーターなどあるが移動などが大変。
- ・20代の時に交付された障害者手帳の写真がずっと変わっていないため、本人確認等で提示した際、本人かどうか、さらに口頭で尋ねられることが度々ある。手帳の写真は変更できるのか。
- ・今、母親と二人生活である。持家で母親の年金と自分のアルバイト代を足して生活している。母親がこの先いなくなったら生活っていうのは何をどうした良いか分からないためやっつけか不安。
- ・一時入所を考えている。本当に一人になった時どう対応すれば良いか悩んでいる。
- ・いつになったら良い状況になるのか心配。
- ・視覚障害の進行により、今後どのくらい不便に感じるのか不安。
- ・気管切開していて不自由なのでサポートしてほしい。
- ・現在車椅子での移動だが、歩行機を使用して自力で歩行できるようリハビリを受けたい。
- ・視野が狭いため暗いところが見えづらい。
- ・ストーマケアのグッズが高すぎること。

## 【行政・相談機関等への御意見・要望】

(行政に求めること等について)

- 行政の窓口の担当者の対応が非常に悪かった。障害者に対しての思いやりが感じられず残念に思った。
- 各地域の役所内の担当者が、障害の事に関して自分の仕事以外の情報を分からない場合が多く、たらい回しになることもあるので困る。
- 障害者になってたくさんの支援やサービスがあることに驚いたが、障害者の認定受けるまでが「あっち行って」「こっち行って」と分かりづらくめげる。
- 障害者が受けられる支援などについて、县市町のホームページで「受けられる場合があります。詳しくは電話等でご相談ください。」と書いてあることがある。対象にあたるのか判断材料がなく、大変不親切に思う。不要な電話や来庁は避けたいので、もう少し詳しい案内をお願いしたい。
- 行政相談機関は必要があって訴えれば対応してくれるというスタンス。日頃から問題意識を持ち積極的に利用している人は良く知り恩恵を受けられるが、関心のない人、理解できない人、普段はそれほど必要ない人にとっては遠い存在なのでとっさに思い浮かばないと思う。年1回くらい積極的にアプローチをし確認をとっても良いのでは。
- 左手がないことで出来ないことがある。グループホームなどの施設を役所で教えてほしかった。こちらから行かないと聞いてもらえない。
- 重い知的障害でグループホーム等での生活が困難な場合、親亡き後、どんな生活、どんな行政利用があるのか。相談窓口がベストなのか。情報の取り方が分かれば幸いです。
- 行政に不信感などがあるため解決してほしい。県や市町村の情報がわかるラジオなど設置してほしい。
- 連絡手段にメールアドレスを掲載していない所が多い。電話、FAXのみなのでメールアドレスも入れてほしい。問い合わせフォームか電話リレーサービスを使っているが難しい時は諦めることもある。
- 本人及び家族に対して、おしつけがましいサービスの内容（やり方）をしないでほしい。机上論でのサービスはありえない。
- 通常の福祉サービスは市が対応してくれており、特に不便不満はない。今まで行政サービス等で栃木県と直接対応したことがないので栃木県がどのような活動をしているのか分からない。今後は注意深く栃木県発の情報に接しようと思う。
- 障害者にもっとサービスや様々な無償化をしてほしい。（医療関係の駐車場利用、障害者雇用への社内理解が低い、事業主や障害者雇用に関する適切なノウハウがない）行政から会社や地域へモーションをかけてほしい（強化）。障害者への関心が薄く、市町が先頭に立ち、会社や店等に障害者への駐車場又は利点を設けていただきたく強く要望する。
- 市と県でそれぞれ申請することが多すぎて難しく分からない。一つにまとめてほしい。
- 各手続や情報窓口の一本化。申請書類が複雑なのでわかりにくい。
- 必要提出書類などの記入がわかりにくい時がある。
- 年々更新手続き（書類等）が難しくなっている。もう少し分かりやすくしてほしい。
- 手帳や申請書のIT化（IT化によって手続きの簡略化、迅速化。官公庁、施設、相談員からの通知や連絡もスムーズ行えると思う。障害者も各自の障害に合ったアプリを利用することにより日常生活の改善につながると思う。）
- 障害者ICTセンターの設置
- もっと聴覚障害者のことを国民に伝えてほしい。補聴器だけで生活できない。全く聞こえない人もたくさんいる。もっと情報を出してほしい。警察に行っても筆談してくれない所が多い。免許更新時全く対応してくれなかったのが不満。

- ・県の施設で運動や水泳をしたくて行ったら難聴というだけで即断された。（緊急時にプールでホイッスルが拾えないことを理由に断られたが、対策方法を考えて受け入れてほしかった。）大きなショックだった。
- ・通常の高校に在学中だが、楽しく学校に通えている。先生方や友人が、私の事を理解してくれてるおかげだと思う。それは、小中学校の先生方が障害理解やいじめなどについて指導して下さったり、学校の先生方や保護者、企業向けに行政やメディアが発信してくれたからだと思う。これからも皆が住み良い街になるようによろしくお願いします。
- ・障害教育に関して、研修や担任をもったことで経験があるからベテランだと思っている方がいて一人一人のことをよく見ないで、一概に症状によってまとめて指導している方がいる。上から目線ではなく寄り添ってほしいこともある。
- ・行政機関からの配分を要望したい。
- ・経済的支援をしてほしい。
- ・一定の資金があれば老後生活を生涯面倒みってくれるような公的なシステム
- ・重度障害なので医療費等は負担しなくても良くなっているが、その他の公共サービス等（電気、ガス、水道）ライフラインの優遇が受けられるようにしてほしい。「お金」に困らない社会にしてほしい。
- ・オムツ等の補助があればいいと思う。（高齢者だけでなく）
- ・制度だけでは対応できないのでインフォーマルの団体と連携できるような連絡会を作って地域体制を構築する。
- ・同じ障害を持った人とのつながりの場がほしい。またその情報提供。いつもひとり孤独を感じ暮らしている。
- ・障害者手帳をカードにしてほしい。
- ・マイナンバーカードに障害名（あるいはマークや有・無など）が表示できれば良いと思う。
- ・目、耳が不自由な障害者が安心して分かりやすい設備の施設があったら良い。
- ・障害についての相談支援の充実と施設整備をしてほしい。
- ・若い人が利用しやすい施設の充実。
- ・バスをもっと利用しやすく充実させてほしい。家の近くにバスターミナルがなく利用するにも2～3時間に1本しかない。
- ・福祉タクシー利用券を発券してほしい。
- ・タクシー券かガソリン補助か選べるようにしてほしい。車でないと移動が困難な地域でガソリン代補助ができれば助かる。
- ・指定難病だが、指定難病のため、不妊治療をしている。指定難病の人に対する、不妊治療の助成の金額がもう少し手厚くなることを願っている。
- ・障害基礎年金や通院入院における医療費助成の更新ごとに医師の診断書を提出しなければならないことが面倒である。（自閉症は回復しない障害と言われているので）

(相談機関に求めること等について)

- ・相談体制の充実
- ・相談出来る場所を作ってほしい。
- ・相談できるところを増やしてほしい。
- ・平日、仕事を休めない時があるため、休日でも相談出来る場所が欲しい。増やして欲しい。担当者によって対応がままならないことがあり、自分自身もどうしていいか分からないときがある。
- ・できれば専門の相談員の方に相談しやすい環境を作ってほしい。
- ・相談に行っても場所が違うことがあり、一度で終わらず時間がかかってしまう。
- ・1ヶ所で相談できる様な体制がほしい。総合相談所で先々までの見通しがあれば良いと思う。



- ・相談員による知識不足が多い。
- ・現場経験が不足しているので、マニュアル通りではなくその場の状況に判断してほしい。
- ・相談員がいてもサービスなどこちらから提案しないと教えてくれない。

#### (障害及び障害者理解について)

- ・田舎は障害に対して差別用語で呼び名前すら呼んでももらえない等、年齢が上の人ほど、差別感情が強く、障害者が周囲の人と共に暮らすにはとても厳しいのが現状なので、将来的には差別が少なくなれば良いと思う。
- ・障害に対するものの見方、周囲の考え方は人それぞれだが、事故などで自分がいつ障害者になるか分からないため、学校などで障害の内容、最新情報をしっかり教えられる環境が整うことを願う。
- ・障害への理解力が足りていないと感じる。軽度の障害も障害であると認識してほしい。
- ・視覚障害者への理解がまだまだ乏しい。駅などの転落防止をもっと対策してほしい。むしろ駅に取り付けを義務化してほしい。都心ばかりの整備ではなく。
- ・未だに疎外されたり、偏見などで苦しんでいて、歴史的なものですぐに変わらないことだが、偏見とか特に田舎はあるので差別しないでほしい。
- ・僕たちみたいな人にも平等に接してくれる人がいてほしい。そんな市にしてください。
- ・手話ができる医療を広げてほしい。筆談など。
- ・医療関係や市役所での呼び出しを音声以外の手段、見える提示で知らせてほしい。このような配慮をどこでも行っていると安心。中途半端な失聴なので手話ができないため文字化していただけだと良い。(難聴で手話ができない人はたくさんいる。)
- ・車椅子駐車場について、健常者の方が駐車していて私達が駐車できないことがよくある。どうして車椅子の人は広い駐車場が必要なのか(車椅子に乗る際に広い場所があるなど)という事をもっと周知するように。アメリカでは車椅子駐車場に健常者が長く駐車すると罰せられる。日本の法律を変えることは難しいか。

#### (暮らしについて)

- ・グループホームをもっと作ってほしい。生活していくお金がほしい。
- ・グループホーム等施設、支援職員の不足。
- ・親が年老いた時が心配である。
- ・親亡き後、子供の行き先が心配である。どんなに重度の障害があっても子供が安心して入所できるような施設がほしい。
- ・現在は両親と生活しているので心配はない。両親亡き後が心配である。通所している施設を利用したいと思っている。
- ・昨年は大病に見舞われ大勢の方たちに助けられた。私も高齢になり息子の将来を本気で考えなくてはならないと思っている。健康に気をつけて委託相談の方や支援センターの方々に相談に乗って頂いている。
- ・障害を持った子が「生まれてきて本当に良かった」と思えるような生活ができることを願っている。親亡き後のことが心配。一人っ子で頼る兄弟がいないので行政に頼るしかない。一人でも生きていけるような制度がほしいと強く思う。
- ・介護者の親が高齢になった時、自身もケアを受けながら障害のある子どもも同じ施設などで介護サービスを受けながら一緒に生活できる様な施設があるといいと思う。わかき特別支援学校に高等部卒業後(ないために15歳を待たずに施設に入所してしまう生徒がいる。)親の都合で施設の空きのために中等部卒業前(15歳)に入所してしまったら、また18歳から何十年も同じ施設で過ごす生活は幸せでもあるが、せめて20歳代まで同世代で過ごす時間があったらいいと思う。

- ・障害者が一人になった場合や老後の生活が心配なく過ごせるような社会、支援が可能となる制度の確立を目指してほしい。（制度、支援、経済面、医療等）
- ・入院になってしまったときは、大切な家族なのでペットの一時預かりをお願いしたい。
- ・家族に負担をかけたくないので施設を希望していても、入りたい時に入れるわけではない。お金もかかる。金銭的な負担もかけたくないし、どうしたらよいのか迷う。

#### （就労について）

- ・障害者雇用率のUP、就学後も療育を充実させてほしい（学校や放デイではなく、専門機関で言語や作業療法を定期的に受けられる体勢を整えてほしい）※近くの市町村で
- ・障害により仕事ができなくなってしまい、収入が全くなってしまい不安を感じている。公的援助を活用できると良い。
- ・障害者合同就職説明相談会開催の再開
- ・障害者のため職業リハセンターを作してほしい。
- ・高次脳機能障害者の就業支援の充実を図ってほしい。見た目は障害者に見えないため、やる気があり採用されても、短期言語力障害があることの理解が得られないため継続ができない。対応（言動）で傷つくことも多い。
- ・一般企業に就けており社会保険等にも加入させていただき、良い対応をしていただけているが、将来仕事を続けていけなくなったり、仮に60歳まで働くことができた後の公的年金で生計をたてなくなった場合（月々の年金額では十分な生活ができないと思う）どのような支援をしていただけるのか知りたい。
- ・左半身麻痺、言語障害があるため仕事も大変きつい時もある。就労した後、会社、行政、福祉面において、仕事の内容など会社での本人の様子などをもっと知ってほしい。いじめなどもあるようだ。
- ・福祉サービスで仕事の送迎もできるようにしてもらいたい。
- ・仕事ができないため無収入となり、年金の受給年齢まで10年以上あり生活が大変である。

#### （災害時の心配事等について）

- ・電話対応が難しい場合の消防の連絡はどうすればいいのかわからない。
- ・災害時の介助や支援や誘導などを誰がしてくれるのか、お願いすればいいのかわからないのが心配である。分かるようにしてほしい。
- ・災害に必要な補助用具の確保は市町村に1ヶ所でもあるとありがたい。特にパウチは交換が必要である。

#### （新型コロナウイルス感染症に関する御意見）

- ・このままで何も対策を取らないと会社倒産か経営行かず死ぬか、コロナで死ぬか、熱中症で死ぬか三つ
- ・コロナに感染した方が意外に身近にいた。退院をしてしばらくしてから耳に入ってきた。基礎疾患のある私たちや家族は本当に気をつけて生活している。わざと感染する方はいないと思うが、感染した方が買物した店や立ち寄った場所等は公表して頂いた方が正直安心である。公表された側は非利益になるかもしれないが、正直不安で仕方ない。
- ・栃木県内で感染者が増えていて、難病の人、持病の人を考え、再度緊急事態宣言を出ししっかり減らし落ち着いてから移動できるようお願いしたい。他県をまたぐ移動をできる限り制限してほしい。
- ・息子はすぐマスクをとってしまう。長時間しているのが苦手である。栃木県はまだ少ないのいいが、もし今後感染が増えていったら…と思うと不安である。
- ・障害者が感染してしまった時の具体的な対処方法を教えていただけると助かる。

- ・家庭内感染したら自宅待機しかないと考えているので、こういった支援があるのか、準備をしているのか、教えてほしい。
- ・障害者だけでもマスクなど配布してほしい。
- ・早くワクチンが開発されることを望む。
- ・ワクチン接種の優先順位としては、呼吸器や循環器に持病がある人は優先的に接種できるのか。市では、呼吸器と循環器に障がいのある人にマスクを送付していただき助かった。自動車税の減免制度について、心臓機能4級者へも対応してほしい。仕事に制限がある為収入が少なく毎年かなり負担である。
- ・他県で問題となっている医療従事者への差別が今のところ自分には影響がないので助かっている。今後差別がないことを願っている。

## 【その他】

(相談について)

- ・困ったときに相談できるLINE相談のようなものがほしい。

(障害及び障害者理解に関すること)

- ・事前に勉強ができるだけでも、受け入れるのにかかる心労や時間は大きく変わってくると思う。
- ・個々、本質的な理解や困難の解消は難しいと思うが想像力を持ちある程度理解することは可能。誰もが生きやすい社会になってほしい。
- ・健聴者家庭で育った聴覚障害者にも情報が入るようにしてほしい。手間がかかるが、家族など無くなった場合など、用紙などでこのような内容が進みますといった案内がほしい。
- ・聴覚障害者への対応をもう少し考慮してほしい。呼び出しに気づかないことがある。
- ・聞こえない人への情報が少なくコミュニケーションが少なく困っている。栃木県は障害者への対応が遅れている。群馬県は対応が早いため、群馬県へ引越している人が増えている。私は栃木県が良いので頑張って対応を早くしてほしい。
- ・成年後見人を立てた後の具体的な生活状況が知りたい。
- ・運転している場合は、一度降りてポールをどかして、また乗ると大変なので、ポールを置くのはやめてほしい。また、車椅子使用者は傘がさせない。できたら車椅子駐車場には屋根を付けてほしい。歩行者道路を直しているが、レンガ調にしている。見た目は良いと思うし、他にも利点があるかもしれないが、車椅子やベビーカー使用者にとってはレンガ調の歩道は走りにくいという事を知ってほしい。今後の街づくりには検討してほしい。車椅子の人からもっと意見を聞いて街づくりをしてほしい。意見を発信するような場所がほしい。
- ・思いやりスペースをつけている人の駐車場を増やして欲しい。

(暮らしについて)

- ・グループホームが少ないと思う。
- ・両親がいなくなり自分ひとりで生活するのが不安なので、両親が健全なうちに安心して生活できるように施設等を見つきたい。
- ・今は家族と暮らしているが、年齢が高齢になった時が心配。現在の症状が進行しているので今後が心配。
- ・現在は家族に支えられているため生活ができているが、今後一人になった時には不安がある。
- ・自分が発達障害で学校でトラウマを作ってしまった後悔しているので、学校で疎外される学校教育に疑問しかない。
- ・障害児が高等部卒業後（また親の都合などで中等部卒業後）作業所、福祉施設の選択肢しかないのが悲しい。親の付添いでもいいから、肢体不自由児でも健常の方と同じように、大学、短大、専門学校（内容は特化するが）など選べる環境が少しでもあるとうれしい。

- ・他県に比べて福祉が遅れている栃木県。福祉が進んでいる県を参考にして、福祉を充実させていってほしい。アンケートを取るだけでなく、福祉サービスの向上を計ってほしい。
- ・特児などが収入によってなくなるのは不公平だと思う。障害があることには変わりはないのに親の収入でもらえなくなるのはなくしてほしい。
- ・生活、医療費などにお金がかかるため、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定疾患医療受給者証を持っている方への税金の減額をお願いしたい。
- ・現在入院している。ひどい妄想に苦しんでいる。精神的に疲れ果て、妄想から逃れるには天国に行くしかないと思んでいる。病院の医療体制が処方箋だけ。細かい心のケアを充実してほしい。医療費が生活を圧迫する。今後の事で悩み、解決方法がない。
- ・生活に沿った手当がほしい。
- ・どこへ行っても家賃は高い。
- ・タクシーや福祉タクシーの料金が高すぎる。いくらか安心できないか。
- ・重度心身障害者だが、通勤電車2駅短距離だと運賃減額がないのが変である。定期代を安くすることを考えてほしい。

#### (就労について)

- ・通勤先と自宅が不便な場所にあるので、通勤の時に同行援護を使えるようにしてほしい。
- ・会社で就労に関し制限がある。それにより残業の範囲が限られてしまって希望の仕事ができない。収入も少ない。
- ・身体障害はあるが、縁があって現在一般就労をしており、福祉の分野で支援する側として仕事をしている。障害者の専用求人では就職活動をしていた頃は、給与水準の低さで将来の不安を抱えながら職業をしていた。たとえ機会があっても、結婚や子供を持つことが経済的に困難になってしまう方もいると思う。また、福祉の仕事をするようになった今も、業界全体の給与水準の低さに悩んでいる。弱い立場の人とそれを支援する人、どちらも生活に困るのはおかしいと思う。障害のある人と福祉の仕事をする人がお金の不安を持たずに生活できるよう、行政で支えて頂けることを願っている。

#### (その他の御意見)

- ・次のアンケートはスマホでも回答できるようになれば良いと思う。
- ・市担当課の対応は大変親切でうれしく思い助かっている。
- ・マスクをしていないと出づらいため、”感覚が過敏なためマスクができません”などというバッチなど県民の皆さんに広く知ってもらえるツールがあったら良いと思う。預貯金の管理など後見人制度があることは知っているが、費用が我が家には高すぎる。何か個人ごとではなく福祉施設利用者集団ごとなどで利用者一人あたりの費用がもっと安価にならないか考えていただけないか。
- ・コロナの影響でビニールシートをしているお店が多いが、難聴者にとっては相手の顔がビニールで見えにくく普段より買物をしにくい状況にある。行政からも働きかけて少しでも緩和されるとありがたいと思う。
- ・ノンアルコールの消毒液、ジュレをお願いしたい。